

投票理由

再生可能エネルギーの推進

賛成

確かに現在は自然破壊や汚染の問題があるので発展途上ではあるが、改良を続けて、自然のエネルギーを上手に使うことができるようになるのが望ましい。
100%再生エネルギーの環境を直ぐに実現する事は難しいと思いますが、今よりも少しだけ政策的な支援を増やすことで、徐々に再エネ中心のエコシステムを構築する事は可能だと考えています。それは、今の世の中とは違う世界になるかもしれませんが、未来のあるべき社会が今の資本主義経済の延長線上に有るのかと言う議論も含めて、社会全体として取り組むべきテーマだと考えています。
脱原発すべき
討論の中で、日本は再生可能エネルギーのポテンシャルが低いようなことを言われていましたが、逆です。原発や火力発電所にまだ確立されていない新技術で CO2 排出を削減するより、そのお金と労力を再エネに注ぐことが気候危機を少しでも止める現実的な手段だと思います。
技術開発(蓄電や発電効率アップ)によって、海に囲まれた日本でも再生可能エネルギーの依存度を高めることはできると思うし、やらなければ未来はない。
化石燃料を使わないので、コストは安い。地産地消で地域活性化に良い。
太陽光エネルギーは半導体不足でのパネル供給や、パネル廃棄での環境汚染のリスクが高いため反対だが、自国のエネルギー自給率を高めるために風力や地熱、薪など太陽光以外の再生可能エネルギーの依存率を高めることに賛成します。
環境問題や健康被害、使用後の処理など課題は大きいですが、実用研究せざるを得ない
大学に大胆に研究費予算をつけ、新たな自然エネルギーを開発すべき。
再生可能エネルギー依存というよりも、化石燃料依存で成り立つ人類の暮らしそのものを見つめ直すための手段として、様々な選択をしなければならないと思う。これからの地球を生きていく、まだ見ぬ子孫たちが本当の意味で豊かに暮らしていくために。
困難ではあるが、そちらにシフトをしていかない限り、いつまでも原発、メガソーラの利権構造に簡単になる。
地球的危機だから
ゼロエミッションのみが人類の未来
これからのエネルギーは再エネ。時代の流れを読み日本が世界から孤立しないため。
個々の手段は不安定でも、組み合わせれば安定電源に成り得る
日本の技術は高かった。無駄な原発を推進する方向に向かったため、世界から取り残された。エネルギー資源が無い日本こそ技術を高め、世界をリードして欲しい。
安全第一
原発は廃棄や事故の補償を含めたらコストが高い、但し、太陽光パネルは山を切り拓いてまですべきではない。
再生可能エネルギーの普及で新たな産業や雇用を生み出していきたい。スマートグリッドの普及が必要。
メガソーラ太陽光パネルなどの利権絡みのやり方には反対ですがそれ以外地熱発電や家庭屋根ソーラ太陽光パネル！あと再生可能エネルギー稼働までの一時的継続としての火力発電対応には手段として有りかと思っています。
反対する理由がわからない。
人体に害のある原子力より、自然エネルギーを使用したい。

地熱については、火力や原子力のような大規模なものではなく、地熱の余剰を利用して地域限定の小規模なものをあちこちに作るやり方なら、温泉の枯渇のリスクは減ると思う。現実には上手くやっているところもある。

脱原発を現実的に近づけるため

再生可能エネルギーは、原発より安価で安全であるというのはすでに試算されている事実である。温暖化対策にも有益。メガソーラーのような自然破壊を伴う再生可能エネルギーではなく、地産地消の再生可能エネルギーが必要。

基本的に生活を見直すこと。50年前の生活に戻れとは言わない。が、周りを見渡せば電気の使用があまりにも多い。宇宙から見た日本列島の映像。首都圏・中部・関西などが煌煌と輝いている。無駄な電気使用を減らす。それによって再生可能エネルギーで十分賄えると思う。政府が本気になるかどうかだ。大企業に阿ってはダメだ。

燃やすだけでは能がない。もっと賢くなったほうがよい。

高めること自体は賛成ですが、政策としての進め方は公明正大でなければなりません。電力業界の利権構造がそのまま残るようではいけない。他方、新技術は高いコストになりがちです。経済合理性は担保しなければならない。省エネルギー機器の導入、都市計画としての公共交通の普及等と組み合わせ、施策を構築しなければならない。

今ある資源を使って これ以上自然を壊さず 生活できることが、地球にとっても人にとっても幸せだと思うから

再生可能エネルギー推進の必要性 ～火力発電・原子力発電との比較～ 現代社会において、エネルギー供給の安定性は経済活動や私たちの生活を支える上で不可欠です。現在の主要な発電方法である火力発電と原子力発電にはそれぞれ利点と欠点がありますが、長期的な視点で持続可能な社会を目指すには、やはり再生可能エネルギーの推進が不可欠です。火力発電(石油・天然ガス)の利点と欠点 利点 発電量の調整が容易で、需要に応じた柔軟な運用が可能 既存のインフラが整っており、即座にエネルギー供給が可能 欠点 CO₂を大量に排出し、地球温暖化の主要因となる 化石燃料は有限であり、価格が市場変動に大きく左右される エネルギー資源の多くを海外に依存しており、供給リスクが高い 原子力発電の利点と欠点 利点 一度の燃料投入で長期間安定した発電が可能 CO₂を排出しないため、地球温暖化対策として有効 欠点 放射性廃棄物の処理が困難で、長期的な管理が必要 重大事故のリスクがあり、安全性確保に多大なコストがかかる 原発の建設・維持には膨大な時間と費用がかかる それでも再生可能エネルギーを推進すべき理由 火力発電も原子力発電も、それぞれエネルギー供給の面での利点がありますが、長期的な環境・安全面での課題を抱えています。そのため、持続可能な社会の実現に向けて、再生可能エネルギーへの移行が不可欠です。再生可能エネルギーの技術進化 近年、再生可能エネルギーの技術が飛躍的に進化しています。エネルギー変換効率の向上: 太陽光パネルや風力タービンの効率が向上し、より少ない面積・設備で多くの電力を生み出せるようになっていきます。蓄電池技術の発展: 大容量のリチウムイオン電池や全固体電池、フロー電池の開発が進み、再生可能エネルギーの不安定な供給を補い、安定した電力供給が可能になってきています。スマートグリッドの導入: AIやIoTを活用し、電力を効率的に分配・制御することで、再生可能エネルギーの利用率を向上させています。産業界の電力自給化によるコスト削減 工場やオフィスビルが自前で太陽光発電や風力発電を導入し、電力を自給化することで、電気料金の削減が可能になります。企業の電力コスト削減は、製品価格の低下につながり、消費者にとってもメリットがあります。さらに、余剰電力を蓄電して活用することで、災害時の電力供給リスクを軽減し、企業のレジリエンス(回復力)向上にも貢献します。自動車・物流業界の脱炭素化 電気自動車(EV)や燃料電池車(FCV)の普及により、再生可能エネルギーを直接活用することが可能になります。物流業界においても、再生可能エネルギー由来の電力を活用したトラックやドローンの運用が進みつつあります。これにより、都市部の大気汚染を低減し、環境負荷の少ない輸送システムの構築が可能となります。結論 火力発電や

原子力発電に依存する現状から脱却し、再生可能エネルギーを主軸としたエネルギー政策へシフトすることが、環境・経済の両面で持続可能な未来を実現する鍵となります。政府・企業・個人が協力し、技術革新とインフラ整備を進めることで、産業の電力自給化や輸送システムの脱炭素化が進み、経済成長と環境負荷低減の両立が可能となります。
危険な原発に固執せずに安全性を考えながら再生可能エネルギーを利用すればコントロールも可能
CO2削減のためには必須。
大規模発電をして長距離に電線で電気を送るシステム自体が無駄が多すぎる。電力の地産地消が必要だと思うので、そのためにも自然エネルギーの技術開発は不可欠。電力事業の根本的見直しに自然エネルギーの活用を第一歩としてほしい。
カーボンニュートラルの点からも依存率を高めることが重要！
日本ではどのエネルギー源もゼロにせず、再生可能エネルギーを増やし、原発は新設のみ稼働するという多様性のある考え方が必要だと思う
安定電源の確保が一番問題でしょうが、大型蓄電池や太陽光・風力とミックスすれば可能。核のゴミに比べ処理は可能、何より海上風力は一番問題が無い。安全対策にかかる原発より安い。
諸々反対理由はありますが、基本原発は全廃することを支持しますので、その代替案としては再生可能エネルギーの開発を進めることしかありません。一つ一つの規模は小さくても、色々異なる再生可能エネルギーを複合的に使うことによって電力を確保する技術を開発すべき。IT だの AI だのを作り出した科学技術力があるのですからできるはずです。しかし、第一前提として、人類特に工業先進国と言われている国々の人々の生活規模、を縮小することです。
風力、地熱、波力、太陽光等、再生可能エネルギーの源となるものが多くあり、その技術を磨くことで、技術輸出で、産業を発展させることが可能
自然エネルギー100%で自立することは日本の技術力経済力で可能だから。ただし、住民自治のため地産地消、地元でエネルギーとお金が回る仕組みを、住民自身の決定により行われるべき。
賛成ではあるが、自分が知る限り現状の再生エネルギーでこれは、と思うものが見当たらない。その理由は、太陽光発電や風力発電(洋上風力含む)には新たな自然破壊(自然災害の甚大化)や人体への悪影響(低周波)が報告されているからだ。自然と人間と動物に悪影響がないよう、民間事業者の国土利用を規制しつつエネルギー開発を国主導でして欲しい。(利権に群がるハイエナを排除できるのか?)国民も少し不自由な生活を受け入れるよう暮らしを見直す必要があるのではないか。
・再生可能エネルギーにも問題はないとはいえないが、コスト面・安全性・持続性を考えたら再生可能エネルギーに変更していくべき。津波対策やテロ対策費を再生可能エネルギー普及にかけた方が正解だった。
洋上風力発電とか、潮流発電に適した立地に恵まれている。この莫大なエネルギーを利用すべきだ。
原子力発電も化石燃料発電も環境を破壊する
原発は NG、CO2 排出は極力抑えたい、となれば選択肢は自然エネルギーに。今ある課題を技術開発で改善できるよう注力すべき。
賛成であるが、太陽光パネルの乱用のような利権絡みが指摘されるような急速な変化は好ましくない。水力、地熱、そして古くからある火力発電も技術進歩して環境に配慮したものになっているので、これらを積極的に組み合わせ利用して行くべきである。
原発を速やかに廃止したいから。再生可能エネルギーを利権にさせないことも必須。再生可能エネルギーで発電した電気の蓄電も研究して欲しい。

<p>全ての再生可能エネルギーが良いとは言えないが、原発と同じぐらいの開発費用を投じればコストや環境にも配慮した再生可能エネルギーが実現できると考える。</p>
<p>有事の際には、エネルギーの自給が大変重要だから。国産できる再生可能エネルギーの拡大は安全保障の観点から必要。</p>
<p>二酸化炭素を出さないためにも必要。</p>
<p>あちこちで戦争が起きている今、自国での発電力は必須であり、将来枯渇するかもしれないものに後先考えずに頼るのは良くない。ちょっとずつでも色々な発電方法で偏らずに進めて行ければよいと思っています。もちろん、原発ではなく再生可能エネルギーの今後の開発に力とお金をかけてほしいと思います。目の前だけ、自分だけを考えるのではなく、子孫、今後の人類の為に、今、多少電気代が上がったとしても進めるべきではないでしょうか？</p>
<p>日本のこれからのエネルギーは、再生可能エネルギー、自然エネルギーで 100%を賄える国づくりを目指すべきと考えるから。</p>
<p>今、いろんな問題があっても解決出来ると思う。</p>
<p>日本は、島国であり、地震、火山が多くあり、地熱発電、太陽発電、風力発電と選択肢が多くあり、地熱発電は、温泉地域から反対で進んでいない模様だが、国民発議で進めて議論すべきと考える。アイスランドのように地熱発電を有効利用していることもあり、パリへ観光旅行する自民党議員達の批判等国民が抗議すべきと考える</p>
<p>日本は石油輸入国なので、なにか世界的にあったとき、エネルギーの自給率を高める事が必要だと思います。再生可能エネルギーの研究などに予算を投入して、エネルギーの防衛を高める政策を政府は行って欲しい。地熱、海上風力、ソーラーパネル、課題はあるが、その課題を国が人物金をかけていけば、長期的にはエネルギーを他国に依存しない国になると考えています。</p>
<p>依存率は高めていくのが必要ではあるが、その政策によって利権構造が生まれないようにする必要はあること条件付きです。</p>
<p>これからの人類にとって当然の事です。</p>
<p>地球温暖化は深刻な問題となっており、CO2 の排出を削減するためにも、徐々に再生可能エネルギーへの依存を高めていくことが必要になってくるのではと思う。</p>
<p>環境に優しくコスト的にも十分見合う。</p>
<p>日本は、エネルギー資源がない国です。しかし、太陽光や風や水は、ただ同然で、手に入ります。高いお金を払って輸入する必要がありません。また、再生可能エネルギーは、地産地消のエネルギーだという点です。現在の大きな電力会社が儲かるだけではなく、その地域の中で、お金が循環する社会を作ることができるエネルギーだと考えるからです。</p>
<p>日本は火山が非常に多い国なので、地熱発電にもっと力を入れるべきだと思います。現在、地熱発電に関する規制が幾つかありますが、地熱発電は自然のエネルギー活用なので、環境に与えるマイナスの影響も少ないと思います。また、現在の技術で十分に人間のコントロールが可能だと思います。</p>
<p>日本では地熱、波力、水力等まだまだ活用出来る資源がたくさんあると思う。地産地消で省エネしながら、太陽の力をもとに循環させていく事が必要であると思うので。</p>
<p>CO2 を排出する火力発電、人類と共存できない核を使用する原発から再生可能エネルギーへの依存率を高めることは必要です。政府には「救うのは太陽」と謳った企業を育てることのできなかつたこと責任を強く感じてほしいと思います。</p>
<p>再生可能エネルギーが増えれば、コストは安くなる。そもそも少々コスト高でも将来世代のために、エネルギー源転換は加速度的に進めるべき</p>

・人類が生存可能な環境を自ら作るために
真摯に取り組んでいれば原発の大半が停止できていたと思うから。
原発依存度を低減することだけでなく、CO ₂ の削減を少しでも少なくすることを考えるなら、再生可能エネルギーの普及推進は急務である(原発は動かすのに CO ₂ を排出するため、CO ₂ 削減の手段にはならない)。普及推進のための技術開発を通じ、太陽光パネルや風力発電機の環境への影響(現状でも原発に比べればはるかに小さいが)を少しでもなくしていくことも大切である。
原発で核のゴミを生み出すことはダメです。地域単位で対応できるもので開発できると思う、その力はある。
太陽光発電を持ち家に導入しているが 5 人家族のオール電化家庭の使用電力を十分に賄えるため、原発にかかる費用や税金を家屋や施設に投入すれば必要な電力量をかなりカバー出来ると確信出来る為。
小水力発電や地熱利用など自然を壊さよう環境に配慮したエネルギーを増やしていけたら良いと思う。
子孫に、絶対的に、安心して、勧められる。
時間やコストをかけても原発や化石燃料エネルギー依存度を下げた方がよいと考えるから。
技術が進歩し再生可能エネルギーが原子力と違い人体に全く影響なくなると思います。
再エネにも問題点はあるが、技術的にまたは社会的に克服出来るだろう。
再生できるものを利用するのは当たり前です
原発より自然エネルギーを使う必要を感じるから。
火力発電は徐々にやめる。コジェネで地産地消のエネルギーを使用するように。太陽光発電の大量は環境を破壊するし、風量発電も近海では禁止にする。あくまでも、地産地消のコジェネにする。
日本にはいろいろな再生可能エネルギーがあり、まだまだ開発されていない。原発をやめれば、再生可能エネルギーの開発がもっともっと進むと思う
化石燃料は、温暖化と健康被害も考えられる
地球を守り、雇用も産まれる。
再生可能エネルギーはお話の中でも言われていたように必要な時の取り出すのではないので、蓄電方式(エネルギー保尊方法)を高めていけば、ベースロード電源になると思います。
賛成意見の 4, 5 に同意
日本は今も危機的状況なのに今度福島のようなことが起きたら再起不能。また古い型の原発の再稼働は地震国として不適切
ただし、地熱と水力発電をベースとし、既存の太陽光パネルを使用する発電方法のみの過剰な推進は反対。
環境負荷が高く事故の際の運転による被爆がまぬがれない非人間的な原発から環境に負荷のない、もしくは少ないエネルギーにシフトすべき。
なぜコストの高い原発や化石に頼るのか。そっちの方がわからない。
きれいな未来を後世に残したい
再エネの技術開発を進め、国内産業として成長させて、自給率を高めることが安全保障になるから。環境負荷を抑えるため。
賛成だが、太陽光パネルや風力発電のデメリットへの対策は必要だと思います。
電気代で再エネ賦課金を徴収しているのだから、依存率を高めるの当たり前だと思います。再エネの依存率を高めるために再エネ賦課金を徴収しているのではないのでしょうか？ 再エネの依存率向上に反対の人は、火力か原発に依存することになると考えますが、どちらの問題も再エネの問題よりも重大と考える。火力の問題：

CO2 原発の問題:放射線のリスク。これらの問題の解決として、再エネのコスト(蓄電技術等)に投資すべき。そのコストへの投資は、国民の理解が得られやすいと考える。
徹底した省資源省エネ対策と合わせて、再生エネルギーを最大化する以外の選択は有り得ない。
地球温暖化が進んでいるという中で、洋上風力、地熱、水力、太陽光などを地域に適した電力確保。原発は危険度が高く、最終コストも高く、停止・廃止です。
原発は廃炉にしなければならない
CO2を減らすためと、原発をやめるため。
我が国は地下埋蔵エネルギーが乏しいので海外に依存しなければならない、日本は周りを海に囲まれ、急峻な山々と森林に恵まれ水田があり中山間地には水流に恵まれた用水路も沢山ある、大規模なメガソーラーや大規模風力など自然破壊を伴う発電より小規模水力、小規模風力、公共施設や工場、学校、住宅などの屋根や壁を利用したソーラー発電、また海洋波力や地熱など様々な資源がある、その様な発電設備を各地域(5000 人規模)事ぐらいのスマートグリッドを構築し既存電力会社から購入するのでは無く国及び地方自治体毎の管理運営で電力を供給する地産地消がエネルギー安全保障に一番適うのでは無いか！
ロシアの暴挙で不安はあるが、EU 先進国の叡智に後進国思考停止の日本は倣うべき。
火力は石油などで海外に依存する。原発は事故のリスクが大きい。そのため国内で自給できる再生可能エネルギーの開発を進めるべき。ただし環境破壊にならない範囲で行うべき。
再生可能でクリーン。
そもそも原発は不要であり、自然と融和した再生可能エネルギーの開発と活用が地球にとって大切と考える。
大きな地球の動きかどうかわからないが温暖化での異常気象は間違いないからなんとかしないといけないから。
原発につき込んだ資金ならびに開発力を再生可能エネルギーの開発に向けるべき。
それしか持続可能ではありません。「仕方ない」で思考停止することなく、新技術の研究開発に国をあげて邁進すべきです。既にさまざまな技術が生み出されているのに、国は取り上げず予算を付けようとしていません。方針を 180 度転換して、環境負荷のないエネルギー産出に全振りすべきです。地域特性に応じたエネルギー産出を地産地消で採択し、新産業とすべきです。長い送電線でロスを放出しながら、遠く離れた都会で無制限に使う体制から転換しなければなりません。
原子力を処理する安全に処理する方法を人類はまだ確実に手にしていない。而も地震大国である我が国において原発事故の可能性は他国より高いと思われる。これを考えたとき再生可能エネルギーへの依存率を高めることは大切だと考える
安全性が高い 安全保障のため
日本は、太陽光にも、風力にも、水力にも、地熱にも恵まれた国であり、この再生可能な資源を利用するのは当然である。
他に選択肢がないと思うが、再生可能エネルギーも、環境に配慮した上で、進める必要はあると思う。
人間はもうすでに地球を汚しまくりました。他の生き物たちになるべく迷惑をかけない生き方にシフトしないといけません。
再生可能エネルギーへの転換コストと原発のライフサイクルコスト(完全な廃炉処理まで)を比較すると再生可能エネルギーへの転換の方がはるかに安価です。
太陽光発電は珍しくないほど普及してきているのでこのまま推進していけばかなり必要量をつくりだせるのではないのでしょうか。ビルの建設にあたっては屋上に必ず太陽光発電の設備を設置するようにすると都市部の電力

<p>はかなりまかなえると思います。また、太陽光発電だけでなく風力発電、地熱発電など他の発電方法も適する場所に設置することで発電量が安定するのではないのでしょうか。</p>
<p>必要最低限の電力消費を大前提に、化石燃料の消費を減らすことが目標になると思う。ただし投資目的のメガソーラーやメガ風力は、全く無意味なので不要。</p>
<p>再生可能エネルギーの種類はいろいろあり、それぞれに特性をもっている。再エネだけではメインの電源とはならないとの反対があるが、メイン電源を求める事自体が間違い。過疎地で原発を造り大量発電～超高压送電して、需要地の都市部へ電気を運ぶという事そのものが、環境破壊でありサスティナブルではない。小さな再エネを地域の条件に応じて分散させて造り、小さなエリアでエネルギー需給バランスをとる事で、田舎と呼ばれている地域の方が、生き残れる場所になるだろう。食糧とエネルギーの時給自足こそ、島国日本が達成すること。都市部のエネルギー問題が残るだろうが、敗戦後「田舎へ買い出し」した事を思い起こせば、最もぜい弱な生活をしているのが都市部の人間である事を自覚して、そういう暮らししか出来ない人達こそ、過疎地や中山間地との関係性を高めるべきだと思う。</p>
<p>原発企業・職員は、再生エネルギー企業・職員として活躍し、社会的地位も高まる。もちろん、公的な支援が必要。</p>
<p>今後の環境を考えると、脱成長か現段階でのエネルギー問題は再生可能エネルギーのみと考えます</p>
<p>少なくとも原発を無くす分は他のエネルギーに振り分ける必要があり、再生可能エネルギーはその有力な候補と考える。</p>
<p>石油、原子力からいろんな再生エネルギーに適当に変換する事がよいのではと</p>
<p>現状では原発に頼らざるを得ない状況であるが、安全面を考えると、やはり将来的には再生可能エネルギーの依存率を高める必要があると考えます。</p>
<p>少しずつ依存率を高めて再生可能エネルギーを使用する技術を高める必要があるから</p>
<p>環境と経済に寄与するから。</p>
<p>日本は再生エネルギーへの予算が少なすぎる</p>
<p>下記理由で賛成です。 ・原発より安価である。日本では、原発は再エネより安価と言われるが、海外では、全く逆。日本ではコストに自治体への補助金や事故被害者への賠償金等原発に不利な要素を含めていない。 ・CO2を排出しない。(政策提言) ・再エネは不安定と言うが、安定化させるため周波数 50/60 サイクルの変換を骨太にして東西日本の需要を平準化する。 ・再エネ業者から電力を購入することを義務付ける。現在、電力会社が原発のために確保している電力線を再エネに開放すれば、再エネ依存率はすぐ上昇する。</p>
<p>地球環境がエネルギー消費型では、破壊されるから</p>
<p>日本は、再生可能エネルギーの技術革新を進めて欲しい ソーラーパネル等は、問題だらけだが、違う方法もあるはずだから 諦めたらおわり</p>
<p>基本的には再生エネルギーに転換すべきだと思うが、コストの面とか、今の太陽光発電の利権、自然破壊などもよく考えるべき</p>
<p>再生可能エネルギーは大出力の発電は向かないので狭い地域内で小出力発電所をたくさん作るのがいいと思っています。リスクは分散するものだと思います。再生可能エネルギーにシフトしていくことで、その方面の研究も進んでいくと思われます。日本で進んでいない地熱発電も実現できればと思っています。</p>
<p>チェルノブイリやフクイチを経験した者として原発はあり得ない。</p>
<p>日本に合わない危険な原発を廃止し、風力、地熱、水力に恵まれた環境を最大限に利用できる再生可能エネルギーを強力に推進するべきだ。</p>

人類は他の生物や自然環境と共存していかなければ存続できない。これ以上地球を痛めつけては生存環境が失われる。これからは自然環境の再生と保存が必須。
将来的にはその方が環境にもコスト的にもよい。
水力やソーラーパネル等、工夫次第で電力は生み出せるから。
原発廃止へ向けて必要だから。自民党も原発事故直後は原発に頼らないエネルギー開発の推進を公約に掲げていたがいつの間にか言わなくなった。経産省にはもう騙されない。
エネルギーの自給自足ができるから
山地を覆う太陽光パネルやずらりと並んだ風力のブレードは反対ですが、地熱発電は賛成です。そもそも大規模に、安定的に、ということから発想を転換して、狭い日本なのだから、地域ごとに小規模の再エネ発電システムを展開すればいいと思います。地熱で成功しているアイスランドをお手本に温泉施設とともに地熱発電を見学できるようにするのもいいと思います。常時安定的な供給ばかりに気を取られず、不安定さを補う蓄電技術を高めるのも日本の高い技術研究力なら可能だと思います。
賛成だが再生可能エネルギーの活用にとまなう環境への悪影響をできるだけ減らす必要
少なくとも、燃料を輸入する必要はなく、燃料コストは無料で無限。設置の際の環境への配慮をしっかりとすれば、持続可能なエネルギーだから。
日本における経済発展の基幹事業になれる可能性が大いにある
毎週月曜日楽しみです
再生可能エネルギーといってもいろいろあるが、火山、温泉が多い日本の国土を利用した発電方法、具体的には地熱、潮流発電等に絞って依存率を上げていくべき。
再生可能エネルギーのうち、極めて気象の影響を受ける太陽光や風力だけでなく、比較的影響を受けにくい水力、そして、基本的に気象の影響を受けない、地熱やバイオマスを組み合わせた上で、揚水発電を含めた蓄電技術を高める。(揚水発電所を設置していることは、原子力発電に管連する施設の中で、唯一、有効活用しうる施設と言える。)そして、気象予測の精度をより一層高めた上で、電気が不足する場合には、オンオフが機動的に行える火力の中でも発電効率の高い、コンバインドサイクル発電を利用することで、CO2の排出を最小限に抑えたい。
賛成側の主張として述べられている意見と同じです
原発が危険すぎる 再生可能エネルギーだけでもやっていける方法にシフトするべき
再生エネルギー施設をネットワーク化すれば自然環境の変動にも強くできる。
早く原発を廃止して自然エネルギーを主体にした体制を作ることが日本には必要である。石油、天然ガス、石炭、ウランなどの輸入費用を減らせるので日本の経済や国民生活向上する。
自然環境の保護及び地球温暖化の対策として、再生可能エネルギーへの依存度を高めることは必然です。また、政府や財界等の主張の原子力発電所のコストが安いと言っている根拠も全くでたらめで信用できない。
今後は分散型のシステムに転換すべきだと思う。
Co2 削減には再生エネルギーしかありません。原発ですら廃棄物の処理ができないし、地震国としては無謀としか言いようがない。
当たり前のことだから。
リサイクルは大事です
賛成ですが、現状の大規模施設による再生可能エネルギーは、環境を破壊しています。エネルギーを消費する地域で、エネルギーをつくる方法の再生エネルギーを考えていただきたい。

電力需要は、今後も伸び続けると言われています。火力、原子力はそれぞれリスクが高いものと思えます。再生可能エネルギーも自然破壊や他の生き物への悪影響がありますが、少しは環境負荷が小さいのではないかと思います。地産地消もしやすい事も利点だと思います。本当は、もっとシンプルで環境負荷の生活に回帰すべきだと思っていますが。
今のところ、コストはかかるかもしれないが、クリーンなエネルギーだと思えるから。
原発は地震大国なので事故リスクが高く、作るのに莫大な設備投資がいる、事故後の対策が出来ない。テロのリスクもある。再生可能エネルギーは環境にやさしい。自然災害が多い日本にふさわしい。
コストは技術革新によって年々低下し、供給の不安定さについても蓄電池の高性能化・低価格化によって解決していくことが見込まれる。危険・高コストな原発の早期廃止と CO 排出量削減のためには、この道しかない。また、災害時のリスク低減にはエネルギーの地産地消が有効であり、その点でも再生可能エネルギーは有望である。
最もコストの安い発電方法だから
原発は廃止(危険、廃棄物の問題など)して、各地域の風土を活かした方法で、小規模で持続的に発電できるはず。再エネが原発より高いというのはウソ。
原発は有事に危険であることは福島第 1 原発で証明されました。何かあっても原子力規制委員会は責任とれないでしょう？もはや原発は利権でしかないと思います。永い先の未来を考えると、再生可能エネルギーへの切り替えは絶対必要と考えます。
放射能のゴミ出す原発、地球温暖化に二酸化炭素出す火力、石炭火力よりエネルギー自給出来るのが、再生可能エネルギーです。
長い目で見れば最もコストパフォーマンスが高く安全な発電であるから。ただし、メガソーラーの弊害については克服する必要がある。
温暖化阻止のために、現在の人類はあらゆる努力と忍耐を払う責任が課せられているから。
賛成意見全てに賛同するから。
発電規模を小さくし地域にあったバランスの良い発電方法を模索すべきかと思います。闇雲な太陽光発電には反対です。
蓄電技術を高めることで再生可能エネルギーも安定すると考える。太陽光エネルギーはピーク電力を下げる効果があるため、発電所の発電能力を上げる必要がなくなると考える。家の断熱性を上げ、太陽光発電をすれば省エネが実現できる。こちらに大きく舵を切るべきと考える。
温泉や地下水への影響を理解しつつ、それでもなお地熱発電の有用性を考慮していただきたい。
再生可能エネルギーの効率的な生産方法など、まだ研究が十分でないように思う。現在の課題を考慮した上で、それでも依存率を高めていく方向に転換してほしい。
原発より再エネの方がコストが安い。
CO2 を排出せず、地域分散の持続可能なエネルギーで多くの雇用創出にもつながるから。
そもそも「資源やエネルギーの大量浪費」に賛成できない。「持続可能社会」の掛け声は良いが、どの程度の「規模」「持続期間」を社会の理想として想定するか(特に“時間軸上のスケール”問題)、で「再生可能エネルギーの評価」も変わる。核と化石燃料は持続可能性が低いので長期に依存できるものではない。
再生可能エネルギーにはまだ色々な問題はあるものの、根本的に自然や人間を含めた生き物にとって優しい(悪影響が少ない)エネルギーと思える。
なるべく環境に負荷をかけない技術に転換していくことが必要。

今はもう自然エネの方が安いから。中国では4年も前に買い取り制度が終了しています!!
原発は廃止、火力はCO2対策を考慮しながら継続するも、エネルギー輸入に頼らない再生可能エネルギーに軸足を移すべき。太陽光はペロブスカイトの国産技術をフルに活かして国を挙げての本格実用化を。アイスランの事例にならない地熱発電も大いに取り組んでいくべきと考えます。
世界から取り残されない為。
早く化石燃料からの脱却を進める方向に進まないと、技術の進歩もしなく本当に電力不足におちいってしまう
日本は火山国でもあるので、地熱の活用を更に強力に調査検討すべき。環境負荷についても解決策があると考ええる。
エネルギーCycleの理に合う
CO2やそれ以外、核のゴミなどを発生させず、再生可能エネルギーを使い地球の環境を守る事が必要だと思う。また、私たちの国が、もっと優れたクリーンエネルギーを開発し、エネルギー分野でのイニシアチブを取るべきだ。
火力は石油が自国領土で取れず、外国から買うしかないとなると安全保障のリスクとなる、原子力はメルトダウンが起きてしまうと損失が無量大となるので経済的合理性がない、となるとこれらの対策として現状、実現可能性が一番高いのは自然の太陽、風力、潮力、地熱などのエネルギーの活用と考えるため
いろいろな蓄電技術を開発&その規模拡大させることで原子力に頼らない電源インフラの構築は可能と思います。
資源の限られる日本として再生可能エネルギーへの転換は必須。無論太陽光パネル設置などに伴う弊害はついて回るにしても、法的規制で改善は出来るはず。原発の危険性、火力発電による排気ガスの問題等とのバランスを考えても今後拡大すべき。
地球にやさしい発電方法だから
化石燃料の燃焼ならびに核分裂による熱エネルギーを利用した発電は先の無いものです。核融合の熱利用はまだまだ先の話であり、人類が制御可能な技術かどうか分かりません。様々な点を見ると自然再生形のエネルギー利用しか残されていません。蓄電池の性能向上と消費電力の削減を図り、夜間照明などの無駄を止めて電力を大切に使うべきです。
エネルギーは、地産地消を原則とし、大発電所を稼働してその電気を各地に配電する発想はやめていくべきである。データセンターのように、大量の電力を必要とする工場等は、その横に自家発電施設をつくるべきである。
人間の暮らしに、エネルギーの安定的な供給が不可欠だということを前提に、人間と折り合いのつく、エネルギーを選択すべき。風力や太陽光は、技術の進歩で現状の問題点を克服し、より一層の活用が期待出来るが、原発は人間と共存することの出来ない、付き合いいけないエネルギーだから、原発を除外した上で、より共存可能なエネルギーの活用を考えていくしかない。
今のところは経済的優位性は劣るであろうが、エネルギーの安全保障の観点から言えば、日本で自給できるのは再生可能エネルギーが最も優位性を持っているであろう。今後の技術革新によって、太陽光パネルや風車の小型化が進めば、電力の使用地で十分な電力を生み出すことができ、大規模な発電所で発電し、各地に送配電する必要がなくなるであろう。効率が良くなれば、経済的な合理性を高くなっていくであろう。
活断層や海溝型地震の国である日本にそもそも原発は危険でしかありません。そうであるなら、再生可能エネルギー資源を模索し活用する事が日本の生きる道です。海の底に眠る資源の活用費用を原発新規増設費用から転換すべき時です。南海トラフ切迫が叫ばれる昨今。国防は兵器より防災です。その観点から考えても再生可能エネルギー資源に方向転換することが日本の再生であり国民の幸せ繁栄に繋がると思います。

CO2 排出量削減のため必要。原発は制御しきれず、問題外。
私は、現代の人間活動拡大によって、地球と生態系の相互作用が限界に達していると認識している。しかし、原発事故や核戦争などの壊滅的な被害を考えたとき、例えば、太陽光発電や風力発電等による環境への悪影響は非常に小さい規模だと考えており、相対的な判断として、再生可能エネルギーへの依存率を高めることに賛成である。
安全かつ、国民に負担をかけないなら、再生可能エネルギーも、良いかと思うけど！原発再生可能エネルギーは、反対！
過度のエネルギー消費の生活自体を見直すべきだと思う
消極的賛成。ただ個人的にソーラーパネルに関しては現実味を帯びてきた気がする。特に、高層ビルの壁面などに貼る場合で、照明と空調利用で地産地消するのであればかなり減らせる気がする。工業用利用には向かないが、建物設置を義務付け、さらに使用した場合、晴れた日はかなり余りそうな気がする。問題は、作り過ぎの蓄電と足りない時の備蓄の放出。水力発電や水素変換など、使いまわす方法を考える時代にきてるのでは無いかと思う。つなぎとして火力発電に期待したい。CO2 に関しては結局デマっぼいので、実績のある技術で補助しつつ、不安定なものを混ぜるべきだと思う。(原発は不要)。ソーラーパネルの解体方法に疑問はあるが、原発の廃材よりも、作り自体が一定の為、本気で取り組みれば解体技術自体はすぐ確保できる気はする。ただし、解体することで採算が合わないのが問題。解体材料を再利用して、国内再生産できるようになれば、レアアースも怖くない気がするが、結局割高すぎて誰もやらない気がする。原発関連の費用を解体開発費に回してくれたら話が変わってきそう。反対意見に「大規模運用が～」とあるが、そもそも地産地消で考えて、個人が使う分だけ生産できる設備を備える時代になれば、小規模でも何ら問題が無い気がする。電気を買う人がいなくなって会社潰れそうだが。大型電力会社が、街の電力屋さんに細分化されて、誰もが余った即売れる用になったら。電気を備蓄するのが当たり前、この国ならできる気がする。ソーラーパネルのおかげで、電力会社だけが電気を売る時代は終わって、もっと家庭用風力発電とか、小規模焼却炉型発電とか考えれば、意外と元が取れるエネルギーも開発されそう。以上を踏まえると、今後電力会社がやるべきことは、いつでも売買できる蓄電能力な気がしてきた。あと、電気が生産できないときは工場突発的に休みにするような社会で良い気がする。1日くらいだったら電気が無い生活を受け入れる社会になって欲しい。
環境保全のため
これ以上、日本においては危険な原発に頼る事はできない。初期のコストは高いとしても原発危険性を計算するとコストは天と地。これからバッテリー(貯蓄方法)等の技術が進んでくるとコンパクトで低コスト化が進んでくると思う。日本は研究を進め、条件は難しいのだろうがアイスランドのように(電力の約3割を地熱発電)地熱発電を利用できるようになってほしい。
ペロブスカイトの実用化を促進し、個人や地方公共団体単位で発電をすれば、無駄な既存の電力会社などいらないようになる。まずは再生可能エネルギーのポテンシャルを全て出させるべき。
再生可能エネルギーはコストが小さいので、環境影響に配慮するなかで普及を進めるべき。
少しでも環境負荷の少ない再生しエネルギーに比重を置くというのは、環境を守ることに繋がると思うから。
太陽光に偏っているが、風力、地熱、水力等をもっと活用すべきだ。
原発は無理だから
次世代の事、長期的視点に立てば自明
再生可能エネルギーは温暖化対策への切り札で、しかも経済的にも安い。不安定性はバッテリーなどの技術革新で乗り越えられつつある。

<p>第一に気候変動対策(緩和)として。第二に自国のエネルギー自給率を高めるため。これらは、世界の持続可能性と自国のエネルギー安全保障を同時に追求することになる。ただし、再生可能エネルギーを持続可能的に得る方法の研究開発を喫緊の課題とする。</p>
<p>依存率を現状より高めることには賛成。ただし現状の再生可能エネルギーのみに偏りすぎるのは問題がある。物質のエネルギー転換を安全に行なう技術開発とのバランスも大事。当然原子力もその一つ。</p>
<p>原発以外のエネルギーが必要</p>
<p>安全だから</p>
<p>人の命を守るに尽きます。</p>
<p>反対の理由に対する解決にはこれこそ科学の発達に期待できる</p>
<p>安全保障上の懸念 未来に核のゴミを残さない</p>
<p>リスク管理として当然のこと。産業として成長が続く分野であること。同義としては環境という財産を今の世代が使い切ってしまう事は許されないから。</p>
<p>核のゴミを出す原発、CO2 を排出して気候変動を起こす火力、これらを止めるためには再生可能エネルギーに依存せざるを得ない</p>
<p>「リサイクル水素エネルギー」というものがあるそうです。TOYOTA が開発して今月くらいに展示場で発表されているそうです。</p>
<p>あるものは使いましょう。</p>
<p>手放しに賛成はできないが、環境を壊さないものなら賛成できる</p>
<p>いくら国が再エネに消極的でも、気候変動対策としての脱炭素への取り組みはグローバルな取り組み。他国やグローバル企業との関係で脱炭素していかざるを得ない動きがある。そちらのほうが大きくリードしていくと思う。気候正義の観点からも気候変動は人権問題。自国のエネルギー源として再エネをとらえるよりも、もっと大きな視点でとらえた時に、再エネしかないと思う。今再エネだけで賄うことに不可能な部分があるなら、それを可能にしていくような施策や投資をすべき。</p>
<p>再エネにシフトしていくのは仕方が無いと考える。現在ですら気候変動が激しい状況になってしまい日本の四季が無くなりつつある 一足飛びに手柄を得ようとする維新のやり方では実現しがたいが まずは地道に太陽光パネルの高効率化とペロプスカイト太陽電池の普及。築年数が古いマンションと言った大きな施設と言ったところに敷設ができる様にするべきではないか もちろん、蓄電池とセットで。</p>
<p>ネオン広告やテレビの深夜放送など不要な電気など無駄を省きながら自国でエネルギーを最大限に賄うようにシフトすべき</p>
<p>メガソーラーや風力発電には反対。総電力使用量を減らす</p>
<p>風力発電や太陽光発電はバードストライクや設備自体が景観を壊す等の問題があり、また安定的な電力供給には不安はあるものの、原発は減らすべきとの前提から、将来的には問題を解決しつつ依存率を高めて行くことは必要ではないかと考える。</p>
<p>火力発電は燃料輸入で毎年数十兆円の国富が流出している。</p>
<p>日本の電力はまだ化石エネルギーの依存率が高く、多様化を進める必要がある。</p>
<p>討論でもあったように原発は大変危険なものです。原発止めて再生エネルギー、特に自然エネルギーにシフトしていくこと、また蓄電能力を高めることに力を注ぐことです。原発のいけないところは核のゴミの処理ができません。原発をやめることを日本のみならず、世界へも発信していくきたいものです。</p>
<p>核のゴミの半減期を著しく早める技術や、被爆に効く治療・薬の開発と並行して欲しいが、現時点でそれは望め</p>

ないのであれば依存率は高めていくのが望ましい。ただし、今言われているような環境破壊に対して配慮することが必要と考えます。そのため、その広がりには遅いのだろうとは思いますが。
「依存率を高める」ことについては疑う余地がなく賛成です。それをいつまでに、どのくらいにするのか、これは技術発展も関連するのでそこが難しいのですし、原発と絡めて議論することも熟慮が必要。
もっと国内でエネルギーを生産できれば、今のようなコストプッシュインフレになるリスクが減る。環境にも優しい。
ペロブスカイト太陽電池と全・半個体電池により、地産地消の発電システムが世界の主流となることが予想される。
再生エネルギーは素晴らしい。他にありますか？
反対派の意見はすべて技術開発で克服できるものである。
温暖化対策はもとより、持続可能な社会を作るために必須条件。
再生可能エネルギーは必須。重機、航空機を電気で動かすことはできない。二酸化炭素を循環出来る再生燃料開発は必須。また、これまでの太陽光発電の様な利権の食い物にせず、国が管理の元に実施すべき。今からでも利権に動く不届き者たちを一掃すべき。泣くのは何時も力のない庶民。
いまずぐ高めることは現実的ではないが、その指針をはっきり国が示すことによって、研究・技術革新がすすみ、デメリットや課題が解決されていくと思います。(期待します) 理想論ではありますが、日本は海外への依存度を低くしていかなければならないし、再生可能エネルギー技術を高めることで国際競争力を上げていくことが、将来的に色々な意味で大きなメリットになると考えています。
科学的かつ倫理的に考えれば、当然これしかあり得ないから。
他に原発の代替エネルギーはないと思う。正直、再生可能エネルギーもすごくいいとは思わないが、いろいろなことを考えると、電力のきゅん急もバランスが大切だともう。今は、再生可能エネルギーの割合が少ないと思えるので、もう少し増やせばいいと思います。
地球温暖化危機を止め、人類・動植物が生存できる地球を維持するため。
メガソーラーなどのカネに目が眩んだエコでもなんでも無いやり方には反対だが、環境負荷の少ない発電方法をこれからも模索していくべきという前提で賛成。
原発のように危険なゴミを後世に残さずにすむから。自国でエネルギーをなるべくまかなえるのが理想。日本のような災害大国では、逆に言えば、地震なども自然エネルギーとして利用できないものかとすら思っている。研究が進んで、いつの日か低コストで利用できるようになればと思っている。
温暖化防止とクリーンエネルギー推進の為
原発を今すぐ停止するのは、現実的に難しいと言うのも理解できるので、せめて原発に変わる再生可能エネルギーを少しでも推進し、原発に依存するのは卒業するべきだと思う。例えば電気自動車よりもトヨタが開発を進めていた水素カーの方が再生可能エネルギーに準拠していると思うし、おそらく世界のエネルギー覇権を握っている立場の人からは思わしくない存在として、妨害工作をされる可能性はあると思うが、水面下で押し進めて欲しいしあらゆる可能性を考えて準備をしているであろうと言う日本のメーカーへの絶対的な信頼はある。電気自動車が時代遅れになるときは必ず来る。そのときに、水素カーのシェアが高ければそこに搭載されているAI やナビなど OS が日本の基準として装備されたものが世界中に売られていくことになるだろうと思う。そうなったときに、戦争や自分勝手な儲け方をしていた企業や団体との差別化が圧倒的に図れると思う。
原発には反対する
1)多くの国に比べ夜間でも大量の電力が消費されており、必ずしも生活上必要な電力消費とは考えられず、無

<p>駄にエネルギーを利用している。2)人類は自然との調和を何よりも優先しなければ、人類そのものの生存が危険にさらされる。3)日本には日本に適した自然エネルギーを利用した生活を維持することで、持続可能な社会を目指すべきであり、過剰な電力に依存するライフスタイルこそ見直し、次代に豊かな自然を継承できるライフスタイルを目指した社会を目標としたい。</p>
<p>安全な電源が必要</p>
<p>FIT(買取制度)の価格決定そのものに問題があると思う。また小規模水力や水素エンジン、ニュートリノや常温核融合などほかに開発を進めるべき新機軸はあると思う。</p>
<p>第一に原発を放棄する事。再生可能エネルギーの採用にも問題点は多いが、原発への依存よりは数百倍、数千倍も安全である。</p>
<p>地震大国の日本では、原発事故は今後も 100%は防げないと思います。再生エネルギーも不十分な点は沢山ありますが、工夫して活用を希望します。</p>
<p>安全だから</p>
<p>原子力をやめ、化石燃料に頼ることをやめるには再生エネルギーを増やすか電力需要を減らすしかない。</p>
<p>太陽光パネルは薄くて低コストのものができている他の設備ももっと考える余地があるのでは。</p>
<p>地球温暖化防止に不可欠と考えるため</p>
<p>気候変動対策及び核を使用しない点からこれがベストと考える。むしろ 311 後から国が積極的に進めていけば。原子カムラが恨めしい。遅きに失した感もある。</p>
<p>かつて自然エネルギーと言われ、いろいろな所で研究されていたと思います。また、エネルギーの地産地消も将来の夢であると思う。だいたい日本はネオンやイルミネーションなどエネルギーを使いすぎている。衛星で見る東京など恥でしかないと思う。</p>
<p>原発再稼働に賛成していますが、再エネ依存も高めていく必要があると思っている。ペロブスカイト太陽電池など新技術が確立されれば街の中で発電が可能。将来に期待。</p>
<p>万が一原発事故が起こった時の重大な影響は311の際に実証済み。常温核融合実用化までは再エネ・自然エネ発電を推進すべき。特に日本の国土にあった地熱発電を推進するのが望ましい。</p>
<p>日本は世界にも稀な海に囲まれた、火山大国です。これまでの原発に費やしてきた研究開発費を自然再生エネルギーに費やせば、正解が羨む再生エネルギー国家に変貌できると信じています。その後の成功体験を世界に輸出できる経済圏を構築して欲しいです。</p>
<p>再生可能エネルギーはまだましかと思いますが、太陽光発電や、風力発電の自然破壊を見ると、地熱や波力発電の可能性を願いたい。</p>
<p>賛成するが、消極的賛成である。メガソーラーや風力発電など、設置環境によっては環境破壊につながる。また、供給安定化のため、大規模な蓄電設備が必要など、新たなコストや環境問題が起こる可能性がある。これらの問題をクリアすることを条件に、どちらかといえば賛成する。</p>
<p>未来ある子どもたちに、安全なエネルギー生産の形を残すのが大人の責務と思います。</p>
<p>地球のためにも人類のためにもなるからです。</p>
<p>・太陽光は真夏の日中逆に発電量が多いので、不安定でもピーク時に有利 ・ベースロードは地熱。温泉資源への影響はない</p>
<p>資源の少ない日本において、再生可能エネルギー調達は不可欠と思われるから</p>
<p>原発はやめるべき</p>
<p>使いすぎないような暮らしをしながら環境を守っていきたい</p>

原発以外のエネルギーになる 二酸化炭素を排出しない 資源が枯渇しない
温暖化対策を取らないと気候危機がヤバすぎるから
地球温暖化の阻止が必須
再生可能エネルギーはその土地に合ったもので勧められるものでないと、金が優先され環境が壊される。地域住民くらいの単位で進めるのがいいと思う。国は金を出せば良い
気候変動対策のためにもエネルギー自給率のためにも再エネは必須。また、火力に頼ることは海外への国費流出であり、このままでは火力で発生するCO2の処分まで海外に依存することになり、さらに国費が流出することになる。電源構成における太陽光、風力が増えることによる、電力応答性については蓄電システムを含めて解決の必要があるが、どの道避けては通らないため、原子力、火力、CCSなどの開発に使っているリソースを再エネに用い、世界をリードするくらい再エネ化を進めるべき。
今回の、最初の問いへの「理由」に記したことを、この3番目の問いへの「理由」としてください。それからまた、わが国には(未だ利用していない)自然のエネルギーが膨大に存在しているはずですし、そこでの掘り起こしは、新しい産業を生むことに必ずつながらず、とも思っています。旧態依然とした原発は、カネ食い虫のはずです。税金ドロボー的な。(原子力ムラ関係者にはカネが回っていくのでしょうか)
環境に優しい
現在存在するエネルギーシステムでは、市民の生活は決して幸せにはなれないから。エネルギー価格の高騰は、一部の層によってコントロールされていると思う。
原発が無ければ電力が足りなくなるは嘘です。再生可能エネルギーは高いと言うのも嘘です。
原発は決して安価ではないし、災害の際にはとてつもない負担が長期間 かかりつづける
地球環境、生体内環境、生物の相互関係の基本は循環によって成り立っている。技術は利点のみではなく、危険性も含めて総合的に勘案して利用すべきもの。存続の為には、再生エネルギーへの依存を最大限可能にする方向へ向かうべきである。
長期的な視野に立てば再生可能エネルギーへの依存率を高めるための試みを始めることは必要だと考えます。
基本的には再生可能エネルギーへシフトしていくべきだと思っはいますが、現在の再生可能エネルギーへの依存率の高め方には、おおいに危惧を抱いています。各地での、大規模に自然破壊をして太陽光パネル建設や風力発電設備建設現場を、私自身の目で見てきています。再生可能エネルギーを地産地消でしていくことなら賛成です。でも、それ以前に電力への依存度をもっと少なくする生活を目指していきたいと思っています。
CO2排出の主因である化石燃料や核燃料サイクルが破綻している(原子力村には任せられない)原子力はあり得ない。やはり、太陽からのエネルギーを人間が生活・生きている時間のオーダーと合っている時間オーダーを持つ、再生可能エネルギー(太陽電池、風力、地熱)しか持続性を持つものはない。
原発から脱却するというトップの強い判断でドイツは再生可能エネルギーにシフトしていきました。メルケル首相が原発をやめると判断したのが日本の福島原発事故でした。なぜ当事国である日本がそういう判断をできないのか歯がゆい思いです。原発推進派は再生可能エネルギーはコストの面で課題が山積していると消極的ですが、国民の税金を湯水のごとくつぎ込んでいる国防費を大幅に削減すれば財源は十分確保できます。日本の技術力は世界のトップクラスにあると自負するのであれば、その技術力を再生可能エネルギーに全力で取り組むべきです。原発に依存せざる得ない人たちも、その技術力を安全なエネルギー政策のためなら喜んでシフトしてくれると思います。戦争のために税金を使うのか、国民の安全のために税金を使うのかと問えば、多くの国民は安全を選ぶはずです。私はこの国民発議プロジェクトはそういう声を広げていくことが大きな目的だと思っています。

使用済み核燃料の始末ができていない現状で、これ以上放置する事は、将来にわたる人類への責任放棄なるゆえ。
CO2 削減に向けてのエネルギー対策は必要 供給と需要のバランスを考えること 産廃処理の計画的設置廃棄のリサイクル化を推進して欲しい
原子力村の銭ゲバたちのプロパガンダに乗りたくない。
自然分解し、循環できるものでないと人類は滅びる。地域で賄えるように国が金を出してリードすべき。
原発を止める為に、風力その他原発以外解決して行く事を望みます!
3.11以降国はなにをしていたのでしょうか？何の熱意も感じません。私自身は再エネの利用者です。ピントがずれていたらすみません。ずっと思っていることです
気候変動による被害の防止
原発を使わなくても、再生可能エネルギーを使えば電力供給は可能だと思います。原発に拘り続ける電力会社の姿勢は納得できるものではありません。
安全安心で地球に優しい再エネで電気は賄える。また再エネであっても大規模開発には原発と同様に反対だ。山を切り開いてソーラーパネルを並べるのは土砂災害を誘発する。小川の小規模水力発電や低い温度での地熱発電の技術も進んでいる。家電は昔に比べれば省電力化されている。国は補助金を原発推進でなく再エネにまわすべき。
エネルギーの自給率を高められる
自然エネルギーが本来エネルギーである為
現在の課題はあっても、先々に再生エネルギーへの依存率を高めていくのは当たり前で、困難であってもそこへの挑戦により、かつて「日本アズナンバーワン」と言われた時代を取り戻していけるムードを産官学民と協力して、作り上げていくことが大事だと思うから。
持続可能な社会実現のためには、これ以外選択肢はない。
人類自らが便利さだけを追求して危険な地球の状態を作り出す「原発」という愚かな選択を自分達の意味で即刻止め、緩やかな安全の元で生活したい。そのためには再生可能なエネルギーの選択が現在の最も賢い選択だと思います。
出来るだけ、無駄を省き、持続可能な社会形成が大事。次の世代へ、負の遺産は残したくない。
再生可能エネルギーで世界をリードすべき
原発は百害あって一利なし。利権と腐敗の温床。いいことなしだから。
コストが安い。原料が地方にある。エネルギーを奪い合う紛争が減る。地域で経済を回すことが可能になる。
生命体に危険を与えることは少ない 低コストでエネルギー価格は安くなる
あらゆる災害によるダメージは再生可能エネルギーより原発の方がはるかに大きいと思うからです
風力、太陽光など技術が向上している。
安全性、持続可能性に疑問のある原発は停止し、政府は脱原発政策に舵を切るべき 大規模発電所の開発よりも中小規模の発電施設を地域ごとに作る試みをしている業者もある
「再生可能エネルギーは大規模化が難しい」と言ふ意見が有るが、小規模分散すれば良い話であり、分散した方が災害に強いのは明らかである。北海道では少い大規模施設に依存してゐたため災害時に大規模停電を起こした。火力はまだしも、原発の分散は難しい。洋上風力であれば水素の形でエネルギーを蓄へることが出来る。火力にも原発にも真似出来ないことである。

地球環境に優しい。自然にあるもので、人工的に無理矢理作り出すものでないから。
地産地消型の再生可能エネルギーが 1 番安定していると言う事を、私達は 3.11 でも、戦争でも充分学んだから。
未来のため
原発等半永久的に汚染が残る発電方法からの脱却のためには、太陽光パネルの廃棄物等の問題はあろうとも当面再生可能エネルギーへの依存をせざるを得ないが、省エネも同時並行で技術開発を進めるべきであると考ええる。
原発に関しては、反対です。日本のような地震が頻繁に発生する国として、発生予測もできないし規模すら判らないのに事故が起きたら、被害額の事や生命を守れないのに何故に再稼働をしようとするかの意味が見出だせません。原発の事故の恐ろしさを考えれば、他の再エネを探す事に力を注ぐべきなのでは？ 日本は世界でも唯一の被爆国です。それなのに何故廃炉を目指さないのでしょうか？ 現在有る原発の場所を考えれば、逃げ道すら無い事を国は認めるべきです。何事も無ければ安いエネルギーと言えるかもしれません。災害時の事を考えれば、やはり稼働させるよりも廃炉を目指すべきです。いつ何どき想定外の震災が興るか判りません。単に低価格を求めても、大規模な震災が起きたら諦めるしかない選択はするべきではないと思っています。
温暖化防止とエネルギー供給の安定を図るにはそれしかないでしょう。原発は危険だし。
化石燃料は国外に依存している。核燃料も同様。原発は危険すぎる。地熱発電を増やすべきだ。再エネの天候による不安定さに対しては、電気料金を刻々と変化させる、東西の電源周波数を統一して融通を容易にする、ガス発電の稼働を柔軟に増減するなどに対応。
再エネへの依存率を高めることが人類や地球にとってよい選択だと思う
原発は危険だし、生きていくために電気は必要不可欠なので再生可能エネルギーは必要になってくると思います。火力や水力だけでやって行ければ良いんですが、現実的ではないと思いますので。
現行の巨大プラントで集約した大規模な電力の生産・送電モデルを念頭に置いたままで源泉を自然エネルギーに換えようとする問題が大きくなる。自然環境への負荷を最小限にする小規模なシステムを手近な生活圏に設けて、エネルギーの地産地消的なモデルを構築すれば、再生可能エネルギーの割合は高められると思う。その研究開発・実証実験に国がきちんと予算を付けて支援する事も重要。核保有への執着を核の「平和利用」と糊塗して原発電力のみ優遇する政策をやめるべき
エネルギーの効率の良い使用が地球環境を守ることになる。若い頃発展途上国で起きていた災害は、お金や知恵で対応出来る(先進国は大丈夫)とおごっていたが、無知でした。
人類が自然からエネルギーを確保する方法として、目指すべきは再生可能エネルギーしかない。化石燃料や核燃料はいずれ枯渇するのはわかりきっている。故に再エネの技術革新、研究開発に力を注ぐべきだ。現時点でのコストの比較ばかりしては新しい道は開けてこない。その一方で、電力が削減可能な技術開発も目指すべきだ。その両輪の上で、道のりは遠いが、実現可能と信じたい。
脱原発のために、積極的に再生可能エネルギーを進めることで、安定的なエネルギーより安全なエネルギーにして欲しい
再生可能エネルギーもいろいろあるのですがその地域であったものが可能であれば利用すればいいと思いますが、今、むやみやたらに山肌削って木々伐採してはその地域の住民などときちんと話した上でメリットやデメリットを説明した上で進めることを基本として、それも民間任せではなくきちんと国の目が届くまた、管理ができる体制の上でやらないと、山肌削ることでの豪雨での地滑りの原因になったり、洋上風力などは漁業権などや海域もきちんとした上でやる何事も一方的なやり方ないこと条件で自給自足も考えると必要かと思っています。

ベースロード電源として原発から地熱などに置き換えていく(地熱大国)
原発依存脱却のため必要であるから。
本心は電力消費を縮小していく社会を目指すべきと思う。再生可能エネルギーも、その生成から廃棄まで、環境への負担は看過できない。しかし、世界各国が電力依存を高めていることに不安を感じる。
各手段、問題があることもわかるが、原子力とは違って「やめる」こともできるので、より良い技術の登場までつなぐことができるのでは、と思う。
賛成意見の2・3・4に共感する。その上で、環境を壊す大型太陽パネルではなく、個人・法人等々建物の屋根に太陽光パネル(リサイクルの進められていると聞く)を増やして欲しい。
絶対量を今以上にふやすという考えではありません。エネルギー消費を今以上ふやすべきでなく、そうすると結果的に依存率が高くなるという理由です
賛成反対共にもっとも主張もあれば根拠が不足していると思う主張もある。だが COP28 で賛同している以上推進する義務があると思う。
原発も化石燃料も、もう行き詰っている。再生可能エネルギーへのシフトを否定する合理的な理由が無い。欠点はいずれ克服できる。反対するのは利権がらみ。
日本には再生可能エネルギーを作れる土壌があるから。
原子力発電が夢のエネルギーではなくなった事は明白。今は確かに不安定だがこれからの次世代エネルギーとして進めるべき。
原発に反対する以上代替エネルギーの考慮は必要と感じます。ただ欠点もあるため依存率とのバランスが大事だと思います。話がずれますが 投票結果については 地域別・年代別のグラフに賛成反対の色分けをしていただけるとどの年代・地域で賛成や反対が多いかわかってよいと思います。
石炭火力、原発発電への依存は地球規模の危機を孕んでおり、即刻廃止していくべきです。
前ページにあった理由に加えて、分散型のシステムであることも大きな理由です。
持続可能な社会では再生可能なエネルギー以外はある必要はない 加えて、省エネ・省資源に取り組むべき 冬に夏野菜が必要ですか 電気を 24 時間使う社会を作って省エネができるわけがない AI は膨大なエネルギーを消費します。あなたは、トイレでお尻が冷たいことと 豪雨災害などの天災で避難生活すること どちらを選びますか 参考 持続可能な社会のシステム条件 https://thenaturalstep.org/approach/
国産で持続可能なエネルギーの比率を増やすことは、20~30兆円になる化石燃料の海外からの購入を減らすこととなり、エネルギーの安全保障につながるのと同時に、現在、海外へ流れている化石燃料費用が地域への投資へ流れることで、地域の活性化につながる。豪雨、豪雪、山火事、高温など日本でも気候変動の影響が顕著になってきており、地球温暖化防止は、将来世代のことも考え、対策をさらに加速して進める必要があり、電気の再エネ化は、その中でも大きな削減をできる重要なポイントであるため。
原子力発電は廃棄方法が確立していない「核」を活用するもの、火力発電は二酸化炭素を大量に発生させるもの、水力発電は大規模自然破壊を伴うものです。再生可能エネルギーも現段階では「環境破壊」を伴うものが多いが、これからの開発や対応によって前者に比較するとかなり低減できる。
再生可能エネルギーは、自然や人にも優しく、半永久的に利用し続けることが可能
再生可能エネルギーに限定するわけではないが、たゞ国からガスや石油を輸入して確保している分を原発や再エネに置き換えていくという意味で賛成です。再エネは発電量にムラがあり、ベースロードとして採用しづらいと考えますので、安定的に発電できる原発とミックスしてエネルギー自給率を高めていくべきだと考えます。
原発に依存せず、かつ CO2 の削減を考えた時、その方向で進むしか無いのではないかと

太陽光発電パネルの新商品が開発されたので(薄型で壁にも対応)遠からず利用する日が来ます。
持続的な発展が重要であるから。
やはり、危険な放射線も、地球温暖化の原因でもある二酸化炭素も極力出さない方がよい。その為には、将来は再エネが主力になるのが望ましい。しかし、急ぎ過ぎては、副作用も大きい。森林破壊した巨大な風車や太陽光パネルの設置は、むしろ環境や生命身体への負荷が上回る。よって、環境規制やひとへの安全配慮義務を強化しながら、ゆっくり進めた方がよい。その間は二酸化炭素排出量が少ない高効率新火力を進めるとよい。原発は、もっと環境や身体生命負荷が大きいので廃止。
再生可能エネルギーは、長期にわたり利用できる。温室効果排出せず排出せず。日本も、積極的に取り入れるべき。
国内自給できるエネルギーにシフトすべき
反対派の方々の主張に納得できるものがひとつもない
方針として、原発を増やすことを許可してしまうと、今後それを制限することや、廃炉することが難しくなると考えたので、反対としました。また、一方で廃炉や、積極的な廃止を決定することも、じわじわとエネルギー不足を起こすかとも思いました。ロシアの原油がストップしたり、時事的な問題が影響すると思われます。消極的な決断かもしれませんが、再生可能エネルギーの道を積極的に模索し、競争や技術革新を促していくことは、エネルギー不足を根本的に解消していくのに必要不可欠ではないかと、考えた結果です。
平和産業の創出になると期待できそう。
再生可能エネルギーは技術的にも更なる進歩が見込まれるし、太陽光・風力・地熱ともに資源として半永久的と考えられます。現状では、自然との共生など不満はありますが、普及とともに改善が期待できると考えます。
原発は一回事故が起きると取り戻すことが容易でないのは、福島原発で証明済みです。また、火力発電はCO ₂ を発生させる元となるため、持続可能なエネルギーとは言えないと思います。なので、日本にあった再生可能エネルギーの技術の開発や依存率を高める必要があると考えます。
太陽光発電は、最近いろいろな技術が発表され、国の支援による技術開発を進めるべきです。火力発電も高効率、CO ₂ 排出量の低減された技術が開発されています。火力発電をバックアップとして、この二つを組み合わせた発電送電とすることが、最大公約数的に現状での選択と考えます。発電会社と送電会社とを切り離し、自由化を進めるべきと考えます。
国民が個々にエネルギー自立する生活へ移行することで、暮らしが豊かになる。
どちらかと言えば賛成です。反対意見にも同意できることが多いので。
温暖化対策
自然に逆らわないような、様々な再生可能エネルギーを取り入れる努力をすることがむしろ私たちの責任なのではないかと思う。
ある程度は賛成ですが、根本的にエネルギーが少なくても済む社会に転換していかないと、再エネでも森林破壊や大量破棄問題、健康被害など課題が出て来ています。もちろん原発は反対です。
再生可能エネルギーは環境に配慮しつつ進めるべき。それが最終的には発電コストを大きく下げる。また再生可能エネルギーの技術は日進月歩である。日本もしっかり開発に取り組むことで海外の開発に遅れないようにしなければならない。
できない理由をぐだぐだ言わずに技術開発・向上に努めるべし。
いまのまま再生不可能エネルギーに依存して生活することは、地球環境の汚染を加速度的に進め、地球温暖化も促進する。それを避けることが、地球環境と将来世代のために重要である。

再生可能エネルギーのみの電力供給は、問題が多いと思うが、日本の再生可能エネルギーの割合は低いので高めることにより、エネルギーの自給率を高くする必要がある。
再生可能エネルギーが、完璧だと考えている訳ではないが、原子力よりは地球への負荷が少ないと思うので。
今ある再エネの全面的支持はしないが、電気の無い生活には戻れないという現実を踏まえ、犠牲を強わず枯渇することのないエネルギーの研究開発は必至。再エネ依存率を高める事は、より良い再生可能エネルギーの開発の推進に繋がる。
老朽原発再稼働や原発新增設賛成の側は国民安全への配慮がない。今が無事通り過ぎればそれで良いの考え方。再生可能エネルギーの増加は必然の流れ。ただし再生可能エネで利益が十分出る方策が必要と思う。
過去への遺恨を残さないため。
依存度を高められたら良いが 電力料金が上がり 結果節電対策をする方が具体性が有る様に考えます
概ね賛成ですが、太陽光発電には反対。太陽光発電パネルの廃棄問題が懸念。
人類は太陽エネルギーにより誕生しました。太陽エネルギーを使う技術の開発をする能力を持っていると思います。人類を破滅に導く化石燃料の大量使用と生物の命を脅かす核使用は止めて、太陽エネルギーを使いましょう。
自宅で太陽光発電を取り入れています。それにより発電ができることと、太陽光パネルで夏は特に、太陽の灼熱の熱量を吸収してもらえらるため、部屋の暑さをかなり軽減してもらえ、冷房も弱くすることができるというメリットがあります。海外では再生可能エネルギーをかなりの比率で推進している国があるとのことであり、それらの国から多くを学ぶことが大切であると考えます。
選択肢としてこれ以外に無い。原発拒否の理由はあまた在るが「資源」の点に絞ると、地球の資源はウラン含め、いずれ枯渇するからだ。ならば太陽光・熱、地熱、風、波等に頼る他ない。(問いへの関連意見)しかし再生可能エネルギーであれ、無駄の多い浪費に合わせた消費増大は問題だ。代償として環境汚染や生態系破壊による地球史上無いスピードでの生物群の絶滅が進んでいる。人類自身の首を絞めていることに気づき、長期的視野に立ったエネルギー計画の抜本的見直しを早急に進めるべきだと思う。
そうするしかないから。
環境に配慮した継続可能な形で電気をつくる、その電力量に応じた生活をする 電気に頼り過ぎ。これ以上新機能も多機能も、高速通信も、多量生産大量消費も、複雑な世の中もいらぬ。足るを知る。
とにかく原発を止めることと地球温暖化を止めるため
賛成ですが、果たして今の電力の使用量を維持すべきなのか一度立ち止まって考えるところから始めることが必要だと思います。再生可能エネルギーは、人間にとっては優しいかもしれませんが他の生物にとっては脅威になり得ると、デンマークの海上風力発電を見て感じました。クリーンエネルギーは果たしてほんとにクリーンなのか。一人一人や一企業が使うエネルギーの量を見直すことから始めなければなりません。
危険な物を使い続けるのは、やめてほしい。
火力は環境に負荷をかけ、原発は危険すぎるため
太陽光発電においては、農業との共存可能な方は、各地の事業者・農業者が進めている好事例も多い。太陽光、風力ともに、自然環境を(皆伐などで)損わずに共存していく技術を高めていくことができるのではないかと。
私たちの暮らしている地球はすでに 人間の影響で急速に変わってきており 次の世代につながる星にするため 生命のような再生を繰り返すエネルギーを 模索するのは最も重要だと思います。 また、その事は新しい産業への転換にもなり 経済的にも好循環が産まれるといい
原発に反対 化石燃料に反対 自然にあるものをそのまま利用することが道理だと思う

<p>全部再生エネルギーに頼る必要はないですが、使う時にはよく考えて不要な事柄は極力エネルギーを使わない。その上で、足りない分を補う発電を行う。使う中で、足りているとなれば、原子力から順次廃止、廃炉を進めていけると嬉しい。事故してから想定外と言われてもどうしようもない。想定して物事進めて欲しい。お願いします。</p>
<p>説得力がある。</p>
<p>賛成であるが、安定した供給を求めるなら違うリスクもあると思う</p>
<p>将来の生物のためにも地球への負荷を少しでも減らしたい。</p>
<p>コストの面でも安全性の面でも二酸化炭素削減の面でも再エネが優位</p>
<p>自然環境を破壊するメガソーラーには反対だが、地域に合った地産地消の身の丈にあった再エネは進めるべき</p>
<p>原発よりははるかに、いのちの危険性がないから。</p>
<p>人類の将来を考え、技術的にも未完成で危険な原発や化石燃料に依存すべきでない。</p>
<p>同時にエネルギーの無駄もなんとかしつつ、効率的に自然エネルギーが作れるようになる技術革新に期待したい。</p>
<p>1)「火力/原発と異なり、慣性力が足りない」という意見に対しては、「代わりにフライホイール付きダミー同期発電機を設置すればいい」と言えればいい。英国では既に実施中とのこと 2)「天候に左右される」という意見に対しては、「充電池を付けるか、水素を製造すればいい」と言えればいい。東京都のように充電池にも補助金を。</p>
<p>リスク面など考えるとやっぱり再生可能なエネルギーに変えるなどにし、気候変動にも寄与出来るのでは無いかと思います</p>
<p>原発は不安がつきもの、石油、天然ガスも限りがあるから。</p>
<p>反対する理由のほとんどのものは解決可能。山林農地など既に植物が CO2 を吸収して有効利用・貯留している場所ではなく、すべての人工物(建物、駐車場用地、道路敷地など)の用地を太陽光発電に利用すべき。分散型エネルギーには効率の悪さと引き換えに分散型の良さ(大規模事故に繋がらないなど)がある。省エネも併せて進めれば十分な量が確保できる。CO2 が温暖化の原因でないなどは論外。太陽光、風力の他に地熱、バイオマスなど地域ごとの特色を生かしたエネルギー利用が考えられる。</p>
<p>今より環境負荷を減らせるのであれば賛成したい。ただし現在の太陽光発電やバイオマス発電には矛盾を感じるので手放しでは賛成できない。</p>
<p>環境を持続可能な世界にするには、これしかない</p>
<p>再生可能エネルギーにもさまざまな課題があるが原発のそもそもの問題ある放射性物質による危険性に比べれば小さな事である。再エネは比較的の最近のものが多いので改良の余地が大きい。研究が進めば非常に有力な電源になり得る。</p>
<p>大型の風力・太陽光発電は環境破壊の問題がありますが、地産地消の電力として、屋根貸や農業との併用、小規模水力発電などまだまだ開発の余地があり、技術やメンテナンスを考えると地域の活性化(就業・産業共に)につながると考える。</p>
<p>再生可能エネルギーについて、コスト高や太陽光発電パネル設置に伴う環境破壊など様々な課題があると思いますが技術革新、設置方法の工夫など英知の結集で乗り越えていくことができると考えています。</p>
<p>まだまだ開発途中なので、問題解決をあきらめるのは早い。原発よりも、技術革新してもらいたい。</p>
<p>自分としては電力の安定供給の面で不安があるが、処分方法に困っているウランやCO2をこれ以上増やさない努力をすべきだし、それに合わせた生活をする事を考えるいいきっかけになると思うから。そしてどうしても解決できない問題などが発生したらその時にまた話し合いなどをすればいいと考えている。</p>

CO2 削減(温暖化対策)に多大な効果が見込める為。
豊かな資源を活かし地域とともにつくる再エネにデメリットはありません。
原発は福島第一の事故の経験から再稼働などもってのほかです。また火力発電も、二酸化炭素問題を踏まえれば新増設は(新たな石炭火力発電で二酸化炭素排出の少ないものもあるようなので、そうしたものに限定した上で)最小限にすべきかなと思います。そう考えると、再生可能エネルギーの推進は必須かなと思います。ただ、太陽光発電は北海道では自然破壊の象徴になっていることや、風力発電における人体に悪い周波数問題等、様々な課題もあるかと思えます。そうした課題を放置しての推進はよろしくないので、課題に適切に取り組み「よりました」方法が見つかった手段を積極的に用いていく感じで、推進していく必要があるかなと思います。
資源のない日本では再生可能エネルギーに依存するのが合理的だから
これ以上気候の変動が大きくなったら、人間は生存できなくなるのではないかと、日々実感している。
後世にのこせるものを推進することが大切です。
事故リスクが1番少ないと思うから
基本的に原発に頼らず、将来を考えた時に再生可能エネルギーに頼らざるを得ない。また、大容量の再生可能エネルギーを考慮した場合、日本は国土が狭く、排他的経済水域の広さは世界六位の広さがあるので、洋上風力発電・洋上太陽光発電・潮流発電等を早急に推進する必要がある。
日本は、自然エネルギーの宝庫だと考えるからです。地域に密着した形でエネルギーを生むことが可能と考えます。
いつまでも誰も責任を取らない危険な原子力依存をやめて全ての力を再生エネルギーに注ぐべき
原発・火力発電に変わるものだから。
環境問題とエネルギー問題の両方とも改善させられるのは再生可能エネルギーを追求することが最善だと考えます。
再生可能エネルギーこそより開発をするべきで、多様に分ければリスクも分散できる。
今の地球人ができることはやるべき。ただ、太陽光パネルが産業廃棄物になる点等はなにかアイデアを出さねばと思う
火力、原子力は持続可能でなく、環境にも良くない現状がある。再生可能エネルギーでも運用によっては問題がないわけではないが、その点をクリアして、様々な再生可能エネルギーのミックスで補い合うようにすれば良いと思う。大規模開発ではなく小規模なものを各地に、各家庭や事業所に普及させ自家消費地産地消でいくのが良い。
現在では再生可能エネルギーが万能では無く、多種多様な課題も存在します。しかし、石油大手企業や原発に群がる利権亡者の為の政策が地球温暖化を促進している事は間違いありません。地球の存続の為、課題を克服しつつ再生可能エネルギーの依存率を少しでも増やすべきです。
条件付きで賛成です。例えば、広大土地を必要とする太陽光パネルには反対ですが、建物の窓や屋上に設置できるペロブスカイト型太陽電池には賛成です。また、中国の技術に依存するようなものは、安全保障上の観点から避けるべきです。
原発は、事故が無くても処理が困難な放射性廃棄物の蓄積という問題があり、更に事故のリスクが絶えず存在します。福島を事故を考へても原発は廃棄の方向でいくのが唯一の選択肢だと思います。但し、日本の現実に合わせて進めていかなければならず、ドイツのように迅速には出来ないかなとも思っています。
反対側主張の、安定供給性、コストの問題は今後の取り組み方により時間をかければ改善するのではないかと 思う。

現在は依存率を上げるべきと思いますが、いくつかの発電にバランスよく分散することも持続性の観点から必要です
グリーンエネルギーに投資で景気を回復。れいわ新選組が掲げるグリーンニューディール。
温暖化対策は必須と思います、脱炭素&脱原子力を進めるには、再生可能エネルギーは有効な選択肢ですね
地球環境に負担をかけないで、次世代に少しでもマシな環境を引き継ぐために、再生可能エネルギーに重点を置くしかないと思う
利権や金で無い社会を目指す為にも大切。
地球温暖化が確実に進んでいる状況では、温暖化ガスの排出を減らすために化石燃料への依存を減らし、再生可能エネルギーに切り替える必要がある。
CO2 削減に資するだけでなくエネルギー自給率を高めることになるのでコストと供給の安定に繋がり、安全保障上のリスクも低減できるから
原発は人権を無視したエネルギー政策ですので反対。日本は海に囲まれていますので、海水を利用した水素ガスを発展すべきです。ある日本のコーヒーメーカーは天然ガスを止めて、水素ガスに転換したら、美味しいコーヒーが作れました。それを応用して各家庭に水素ガスに変更すべきです。
都庁なライトアップなど、 unnecessaryな電力消費を算出したい。原発時に夜間余剰電力消費のために始まった電力消費はかなりあるはず。また、コンピュータ関係の電力消費が増加さらになることが予想されるが、これも一人一台タブレットなど与えるなど本当に必要な電力か考えるべき。便利だから儲かるからではなく、どれだけ電力があり、それをどう使うかを国民全体で考えるべき。国は 当てにならないから。
原発を 0 にするのは非現実的なので、稼働しつつ、再生可能エネルギーの依存率も上げて、両輪で賄うやり方が望ましいと考えます
問題はあがるが、解決可能と考える。原子力は諸問題の解決が難しい。
それしか人類が生き延びる方法はない。それがダメならそれに見合った生活レベルを模索すべき。
太陽光はじめ 自然エネルギーはどの国にも平等で無料で手に入れられる。発電と送電を分離し、蓄電技術を向上させ、コントロールすれば自然エネルギー中心でやっていける。
汚染物質を出さないエネルギーが必要
化石燃料と原子力への依存は出来ないから
原発の廃止にあたって、必要不可欠。日本はポテンシャルがある。国民の安心・安全を守るため、さらには世界中の安心・安全を守ることにつながる
原発よりもリスクが少ないから。
温暖化対策として、CO2 を排出しないから原発が脱炭素だという考え方は間違っています。原発は発電時に温室効果ガスを排出しないだけで、ウランの発掘から精錬、加工、輸送、プラントの動力、廃棄物の処理・保管に至るまで、多くのエネルギーを消費し、その全過程で温室効果ガスが発生します。火力発電は廃止、原発をゼロにすること、そして全てのエネルギーは無償で無限に供給される自然由来のエネルギーが現実的です。再生可能エネルギーの促進こそ急がれます。
原発による被ばくが避けられないこと、と、CO2 を考えれば、「再生エネ」が残された選択。
人間は自然を酷使し過ぎています。自然を破壊した先に生きる道はありません。立ち止まって電気に依存しない豊かさに価値観を変えていかなくてははいけません。
生活は、自然とともにあると思うから。自然との融合ということで再生可能エネルギーへの依存率を高めるのがよい。

化石燃料を使い続け、次世代にツケを払わせるべきではない。再生可能エネルギーの依存度を高めるとともに、不要な電力利用の削減を進めるべき。
・再生エネルギーの技術は日進月歩。これからどんどん安く手軽になる。そのためにも需要を高め技術進歩を後押しする必要がある。・再エネもよいが、GTCC や CCS 等の CO2 を極小させる発電技術を振興することが重要。
真に再生可能エネルギーであれば賛成 再生可能とうたいつつ実は自然への悪影響のあるものが多すぎる 太陽光パネルなど愚の骨頂
地球温暖化の阻止と安全なエネルギーの供給のために必要だから。
ここ数年、原発反対の声が少しでも大きくなると電力逼迫や電気代値上げのニュースが流れます。しかし、本当に電力が逼迫しているのなら、都庁等をプロジェクションマッピングしたり、電飾で建物等を煌びやかにしたり等せず、国民のために国が率先して節電をするはずです。原発が絡むと政府の対応に矛盾が生じることが多いため、原子力村と政府の利権が関わっているのではないかと勘繰ってしまいます。よって、原発に依存するのではなく、再生可能エネルギーへの依存率高めることに賛成です。
安全が第一
原子力発電には、持続可能性がなく、地震のたび、どうなっているかの発信は、信頼性が弱い。
原子力発電は都内へ誘致出来る様になれば良いが それが出来ないのに地方の財源、雇用を餌に作っている気がします。プロブスカイトが量産されるのであれば日本の技術として広く使われえる様に国は援助すべきではないかと思います。
再生可能エネルギーも含めて環境・地政学・コスト等々の影響を勘案して選択すべき。
電源出力の不安定さは有るが、蓄電システムやスマートグリッド技術の向上により克服出来ると思う。太陽光、風車発電には環境破壊も懸念されるが、これも技術の進歩により太陽光では屋根、外壁、窓での発電も容易になる。風力では低周波影響を少なくすることもできる。日本は火山の国です。地熱発電も有力な電源です。将来的には核融合発電にも期待できる可能性もある。
再生可能エネルギーが気候温暖化を止める唯一の希望だから、
再生可能エネルギー反対意見を聞いて思ったのですが、コロナ禍の 2021 年東京オリンピック開催、ごみ処分場夢洲での 2025 年大阪関西万博開催及び 2030 年大阪 IR カジノ開業予定については、命の危険を冒してまでやる意義などない、公金獲得及び公金使用による不正の横行という政治経済の歪みを懸念する声や非難が殺到しても、国策として事が前に進み出すと、それを誰も止めることができないばかりか、脅迫や暴力行為等でもってこれら反対派を鎮圧し、社会から政府や経済界への批判を封じ込める、このようなことを平気で行っておきながら、再生可能エネルギーを活用することについては、これこれの理由からこのことを推進するのはたいへん難しいと言われても、説得力に欠けるばかりか、もはや私には詭弁にしか聞こえません。
どちらかと言えば賛成だが、現在行われているような、環境破壊や副次的な悪影響を考慮しない再エネの推進は、原発の利権と同じように、新たな利権を生み出し、地球・世界全体で考えると「いいこと」とはとても言える状況にない。もっとそのあたりも考慮したうえで、真に地球・世界に歪みを生まないような再エネの在り方を考えるべきで、そのうえで利用していくことが必要と考える。
危険性や廃棄処分の決まっていない原発に偏り過ぎているため、代替を高めるのには賛成。 ※ただし太陽光や風力は天候に作用され効率が良いとは言えず、メンテナンスや廃棄にかかるコストが高いこともわかってきた。天候に左右されず夜間も生産可能な地熱・水力に目を向けてほしい
安全保障上、自国のエネルギーは極力自国で賄った方がいい。ドイツの例しかり。あらゆる方策を駆使して石油依存からの脱却を模索すべし。

<p>他 2 つの投票の「理由」に、原発について「誤って不具合が出た時に修正・修復すれば済むような性質のものとは違い、ひとたび事故が起きれば取り返しのつかない甚大な影響をもたらす」と書きましたが、再生可能エネルギーについては逆に、試行錯誤しながら技術を発達させて行くことが可能な(もちろん慎重な事故防止策は求められますが)部分が多いものだと思います。これからも技術革新を続け、現在言われている懸念を過去のものにする努力が必要だと思いますし、それは可能だと思います。「反対側の主張」の①③④と②の後半はそういった努力で克服可能な項目だと思います。⑤は制度やその運用を改善する努力を問うべき問題だと思います。②の前半、「大規模な運用が難しく」という点は賛成の理由にもなると思います。大企業の電力会社による独占がしにくいということだから、より公平で民主的なエネルギーになり得ると思います。⑥は問題外だと思います。「～説もある」ぐらいでリスクを過小評価してはならないと思います。</p>
<p>化石エネルギーは使用効率を高めたところで必ず枯渇する。原子力エネルギーは余りに危険すぎて、ミスが必然の人類には使い続ける合理性がない。原発事故防御&防衛技術は高度になる程に対価が高騰する。政府の大好きな安全保障面でも、必ず最大の弱点となる。再生可能(自然)エネルギーには、今後の技術革新により効率的&経済的に発展する可能性が秘められている。※太陽から使用料請求書が届くことは皆無である。</p>
<p>バイオマス以外の再生可能エネルギーは環境破壊の程度が原子力に比べて極端に小さいから</p>
<p>再生可能エネルギーへの依存が高まれば、技術も進歩する・コストも下がる・安定性も増す。卵が先でも鶏が先でも、始める事が重要と考える。…ところで、“オンライン模擬国民投票”で、投票時に他の方々が書いた理由も読んでみたい気がします。国民発議の発起人さん方々の考え方に近い人が集まっている可能性も有るのでエコーチェンバーを起こさないよう気を付ける必要があるとは思いますが、同じ動画を見て他の人がどう感じるのか…? 気になる所ではあります。</p>
<p>再生可能エネルギーの活用は海外の事例を見ても効率的な課題はありつつも安全性の観点からは現在考え得る最適なエネルギーと考えます。地球温暖化対策の観点から火力発電比率を下げつつ日本の科学力を最大限に活用して開発すべきと考えます。地熱、水力、風力、太陽光発電などの安全性は原発事故対策の過酷さに比べれば非常に高いと思われれます。</p>
<p>エネルギーも食料も自給自足が大原則。</p>
<p>何よりも環境にやさしい</p>
<p>地震大国の日本にとって適切で、その開発は人類の生存継続性に大いに貢献できるものとする。</p>
<p>反対派もそれっぽい理由をあげているがトータルで考えれば放射能がもたらす危険と比較したら再生可能エネルギーのほうが圧倒的にマシ。</p>
<p>再生可能エネルギー以上に、環境保護が可能なエネルギー源は見当たらない。さまざまな課題はあるが、地域ごとに自然環境、社会環境に適した再生可能エネルギーを利用すべきだと思う。太陽光とか風力とか地熱とかどれか一つに特化するのではなく。</p>
<p>地球温暖化を防ぐためには、化石燃料の使用をやめて、再生可能エネルギーをおもなエネルギーにすることは不可欠である。反対意見に述べられていることに対しては、現在さまざまな仕組みや技術が整えられつつあり、解決可能な問題である。</p>
<p>温暖化対策と原子力リスクの低減を考え</p>
<p>原発依存をなくすため</p>
<p>制御可能なエネルギーは資源</p>
<p>原子力は処理にお金と時間が掛かり、安全だと連呼するだけで、どの様な危険に対してどう対策しているか国民に伝えていないから 再生可能エネルギーの方が善い。</p>

核融合等新規の技術が確立されるまでは、現在稼働可能な原発を利用しつつ、再生可能エネルギーを火力の代わりに促進すべきだと思う。
安全なエネルギーを育てることで電気料金はもっと安く、また透明性が高くなると思うので。
太陽光パネル設置についてはもろ手を上げて賛成できない点もあり又は風力発電の自然環境への弊害もあるが、全体としての方向性は再生可能エネルギーへの依存率を高めるべき
前掲の賛成意見と同じ
エネルギーは地産地消がよい
原子力に頼りたくない
布団も洗濯ものも外に干している 日本は太陽光に恵まれている。それを利用しないでわざわざ電力消費をして室内で済まそうという最近のぐうたら生活は人類全体、地球環境からみれば 犯罪です
唯一の道だから。
再生可能エネルギーに関しては、発電手法に関しても未発達で、どんなデメリットがあるのかすらはっきりしていないのが現状だと感じています。将来性について議論するのも時期尚早と感じるほど「若い技術」を育てていくのは、将来を考える上でも必要だと感じます。依存率以前に依存できる発電手法に出来るのかを確認するという意味で、本件に賛成します。
この先、地球上に住み続けるためにはそれしか選択肢が無い
日本もエネルギー自給率を上げるべきだと思うから。
海外では再生エネルギーの利用も進んでいて国としても新たな産業として推進すべきだと思うので。
地熱、水力、風力を使っていくなら賛成！太陽光パネルを利権がらみで進めていくなら反対！
併用は必須であるが再生可能エネルギーの活用は必須と考えるが大規模な森林破壊を伴う太陽光発電は二次的な問題を産む事から進めるべきでは無いと考えます。
人類進化に伴って生存に必要な技術は発展してきた。再生可能エネルギーに関する技術も、利用後の廃棄物をさらに再生化するゼロエミッション研究をめざすことが、地球に生存する全ての生命体の希望と信ずる。
持続可能な文明社会の実現のため
海に囲まれた火山国は地熱、風力、太陽光の利用が最適。小規模分散型にでき、遠距離送電網のエネロスも防げる。
日本は再生可能エネルギーの宝庫です。環境破壊にならないようにすることと、地産地消と住民の了解を得ることを条件にして、どんどん依存率を高めるべき。
基礎電源として原発・地熱・波力、バッファとして、水力・水素。再生エネルギーは、各戸建てに太陽光電池で、であれば海外からのエネルギー源の輸入を減らせられる、結果エネルギーの自給自足が賄えると思う。
日本には資源がないから
地球を汚さずに、枯渇しないエネルギー利用は時代の要請だ。日本政府は本気で蓄電池に補助金をお願い致します。
原発より危険では無いと思うから
再生可能エナジーこそが次世代のエナジーです。原発事故に鑑み原発は最小限にとどめるべきです。
危険極まりない原発よりも、再生可能エネルギー開発へ予算をつけるべきである。新しい産業の開発、雇用の創出にも繋がる。
化石燃料を使わずにエネルギーを生産するには再生可能エネルギーしかない。原発は以ての外。

原子力以外の発電が重要
電力供給の安定性の点では未だ課題はあるが、やはり環境負荷が小さく地産地消の電力供給の分散化が期待できる。
原子力や火力と比べて、安全性が高い。
原発の危険性が高すぎる。クリーンエネルギーへの投資と成長を進めないと次世代への責任が果たせない。
CO2 による地球温暖化説が正しいかは分かりませんが、石油等の資源は有限であり、また原子力は課題が大き過ぎるため、再生可能エネルギーの利用を研究・推進することに基本的には賛成です。しかし、本国において拡大しているメガソーラーに関しては、自然環境や住環境を破壊しており、強く反対します。
事故リスクが伴う発電より遥かに良く、予算を注ぎ込むべき。ただ、太陽光の比率が高いので、日本の風土に合った発電方法を模索してほしい。発送電分離を進めたり国の予算で様々な電力を安価で使用できるようにしてほしい。
低コストで原発よりはるかに安全である。
原発が嫌だから
環境負荷は人口増加に伴う。これからの人口増加率が目に見えておる中で、いつまで有限な資源に頼っているのか
人類にとって持続可能な環境を維持するためには再生可能エネルギーに頼るしかない
脱炭素の推進とエネルギー自給率向上に資するため
「依存率を高める」という表現は語弊があるが(何にも依存なんかしたくない)、再生可能エネルギーの比率を高めるといふ意味であれば、今後も電力をバカスカ使用したいなら再生可能エネルギー以外に道はないだろう。
風力発電など自然環境に悪影響を及ぼしかねないケースもあるが、原子力や火力、水力に依存するよりは将来的にも賢明な選択である。環境を破壊しない多様なエネルギー源を利用していくべきだ
次世代の発電形態として期待する。もっと安価で使い勝手が良くなることを強く望む。
原発は事故が起きたら致命的。再生可能エネルギーはあらゆる生き物生存を脅かさない。今後、技術発展があり、さらに有効性が高まる。技術発展の起爆剤となり、我が国が世界に求められるようになる。
脱炭素と脱原発は両立できると思います
設置する場所を十分吟味して地域住民の皆さんの賛同の中で決定をしてください。
依存率というのが何を表しているのか不明確です。エネルギーバランスの中で再エネの利用率を向上させることには賛成。
それぞれの地域に適した再生可能エネルギーを選択、あるいは開発していくべき。費用効率は悪いかもしれないが、発電システムの費用の効率化を重視し各々の地域に合わないシステムが惰性で推進されるよりマシだろう。
全てでなくても比率を増やすことは賛成。
原子力から脱却をしていく必要があるため。地震をはじめ自然災害の多い日本に原子力発電所は危険すぎる
再生可能エネルギーには太陽光、風力、水力のほかに地熱、潮力があり、多様なエネルギーを活用することで、安定した電力供給を可能にすることができる。火力では、地球温暖化への影響が大きく、将来的に依存率をゼロに近づけるべき。また、原発では、核兵器の原料にする以外、核廃棄物処理ができない。原発を利用し続けられれば、将来の人類を危機に陥れるものである。一刻も早く原発を廃止し再生可能エネルギーへの転換に取り組むべき。
これは確実に必要。規模や幅は議論の余地があるが、少しずつでも増やす努力をし続けていくべき。貿易によ

<p>って世界各国との交渉や交流の元にもなると思うので、100%は目指さなくてもいいが、あまりにも依存し過ぎている。国のお金だけではなく、投資や寄付などを積極的に募り、地球や人類、日本の未来が少しでも明るくなる想像と創造をできる人を増やしてほしいと切に思う。</p>
<p>色々問題があっても原発事故・廃炉・高レベル放射線廃棄物等の問題の方が人類の存亡にかかわるので再生可能エネルギーの方が良いと思われるから。</p>
<p>CO2 削減にも役立ち、危険ではないと思います。</p>
<p>資源のない日本にとっては、自然エネルギーで唯一の自前のエネルギーになります。ドイツでは 51.6%、イギリスでは 37%が再生可能エネルギーであり、日本も取り組みを強化すれば可能はず。</p>
<p>不安定な太陽光の割合を高めるのであれば、蓄電池(など)と組み合わせ、需給バランスを整えることが大前提。また、太陽光による電圧不平衡も、実は大きな課題となっている。太陽光の割合を高めるのであれば、電力品質も加味して開発をすすめるべき。</p>
<p>化石燃料は温暖化を招き、原子力は取り返さない災いを招く、少し不便になっても、地球に優しい再生可能エネルギーに、踏み出すべきと思う。</p>
<p>核燃料サイクルは破綻している</p>
<p>原発は利用しつつ廃止の方向で、平行して再生可能エネルギーを利用したら良いかと。選択肢に有りませんが、日本は火山国なので地熱発電が良いと思います。</p>
<p>安全である</p>
<p>地球環境を考えるとこの道しかない。</p>
<p>重要な国産エネルギーになりうるし、安価です。</p>
<p>基本原発は減らして薄いソーラーが開発されたので自然を破壊しない再生エネルギーを推進する。</p>
<p>日本は自然エネルギーの宝庫 まずは、省エネ減エネ 住宅の造り(断熱)、日中照明いらずの設計、地中熱の利用 電力のムダ遣い…自販機、コンビニ?、過剰サービス、地産地消、地域で経済を循環 個人、地域で推進していくことも大事だとは 思うけれど、やはり【国策が物を言う】と思う。 小選挙区比例代表並立制の小選挙選挙をやめて 民意が正確に反映される【比例代表選挙だけに】を 待望しています。</p>
<p>さらなる技術発展ができるいいタイミングだから。そして他国ができていない分野での技術は良いアピールにもなる。</p>
<p>人類と地球上の生物により安全な環境を作ってゆけると思うから</p>
<p>原発を稼働せず、化石燃料の使用から脱却していくための現実的施策であるため。</p>
<p>国内における再生エネルギー政策の扱いは政府の利権構造にくみこまれる形でゆがめられ、うまく社会に定着できていません。とくに蓄電技術開発の遅れが顕著で、莫大な予算が原子力発電/原子力村に使われている一方、再エネの開発予算は不足しています。これは偏った政策です。原子力産業を優位にさせるための駒として利用している可能性があり再エネの法整備の手抜きや農地との共存などの良い実証実験の結果が一般に知られていません。また国防の点からも、地雷にしかならない原発は廃炉する選択肢しかなく、将来は再生エネルギーへの転換一択です。</p>
<p>太陽光パネルの廃棄については費用がかかっても、再利用などの研究を進めるなどして行くといい。日本は、火山も多く、原発にとっては危険だが、熱エネルギーの利用などでもできる。水資源も、風力資源も利用方法をよく考えれば原発に頼る必要はない。</p>
<p>原発を再生可能エネルギーに含めようとするのは暴論です。</p>
<p>公害を招かない設置を事前調査、話し合いで行えば問題は起きないと思うから。</p>

環境負荷の少ない再生可能エネルギーにシフトすべき
温暖化防止及び原発放射能事故回避
概ね賛成だけれども、再エネのはらむ環境問題をクリアしたらという条件付きで。
それしか生き延びる道はないような気がする
再生可能エネルギーの利用はマクロの視点では賛成。ただし「温暖化詐欺」があおるカーボンニュートラルというプロパガンダにあおられた、昨今の太陽光、風力など別の利権の温床になっている施策には精査が必要。本当に地球に優しく利権の温床にならない自然エネルギー利活用に限定すべき。化石燃料は現在の次善の策として悪ではない。
最もクリーンなエネルギーであり、分散型で災害対応にも最も適したエネルギーです。特に、自然エネルギーなので、自前でエネルギー源の確保が可能なのが大変すばらしい。地域おこしにも活用できる。
代替エネルギーは必要だから
そもそも、再生可能エネルギーの枯渇が心配なら、電力を今のまま使い続ける議論ではなく、消費量を、抑える議論をしたらどうだろうか。今ある自然の力を利用すべく、その自然が長く続くような対策を検討する方が建設的だ。自然にあるものに依存できないから、次のものを開発するのは素敵なことだが、一部の地域や人間を犠牲にして成り立つようなシステムには賛同できない。
原発は危険であり、化石燃料は無限ではない為、再生可能エネルギーへの依存度を高めていく方が良い。
太陽光発電や風力発電を稼働させることは、コストも安くなってきています。軽量化になってもあります。また、原発に比べて地産地消でもあります。
各国間の競争でコストも安くなっていると聞く。原発と比べて危険性が少ないエネルギー、発電方法で持続可能な社会を目指したいから。
石油の輸入に頼る我が国はエネルギーは複数の方法で確保した方がリスクを低減できる。ただし、現状の太陽光発電は自然破壊、パネルの廃棄、火事の際にも発電し続けるなどの問題があり、風力発電もバードストライクなどの問題があるので、別の再生エネルギーを検討すべき。
地球温暖化のことを考えても、原発のデメリットを考えても、それしか選択肢はありません。ただし、景観を壊して大規模ソーラーパネルを設置することには反対です。地震大国であることを活かした地熱発電や、個人規模での水力発電等を推進すべきだと思っています。
再生可能エネルギーは地球への負担が少ないので普及させるべき。1つの案として、発電と消費の場所を近くするスマートグリッドなどが良いと思う。大量に発電し遠くへ送電して消費するのは、とても無駄が多いと思う。
気候変動を考えたら避けて通れない課題であるから。ただし新たに環境問題、立地地域に住む方々へご負担を負わせないことは大前提
可能な限り再生可能エネルギーを使えるように努力、開発すべきである。未来のために。
自国で発電
温暖化は明らかであり、無策が許される状況では無い
太陽光パネルの廃棄問題や風力発電の周囲への影響など課題はあるが、いずれも解決に向けて進んでいると感じるし、自然の力を借りてその恩恵を受けるスタイルは、古来の循環型社会への一部回帰だと思うから
少しずつ、できる範囲でかまわないので、再エネ依存率を高めるべき。我々の生活が災害や天候に左右されるのは昔から当然であり、克服できなくても想定することならできる。災害によっては「温室効果ガスによる影響で増えているのでは？」という説を否定できない。これは、火力発電に頼ることが災害に繋がると言い換えることもできる。原発は、汚染や被曝による影響が長期間に及ぶため。

・長期的な国の施策としてこれを明示することによって、各種の技術開発や教育・研究、国内資源(地熱・水力)の見直し等、環境技術の国際的優位性が高まること。

他の発電システムと併用していけば良いと思う

火力発電、原発の代替えとして不可欠

全固体電池などのバッテリーの進化と情報インフラの発展により、大規模中央集中型より地域分散型&ネットワーク型の発電システムの方がメリットが多くなっている。また原発を含めその燃料を海外に依存する体制から脱却自律するエネルギー安全保障の意味も大きい

反対

再生可能エネルギーは、本当に採算が取れるのであろうか。疑問である。例えば、太陽光発電のソーラーパネルを考えてみると、パネルの耐用年数は10年程度である。約10年ごとの更新が必要になる。このパネルの製造には大量の電力が必要になる。この電力をそのパネルが発電する電力で賄えるのであろうか。賄えなければ、再生できていないことになる。さらに、パネルを設置する場所は、日照の良い場所、放置されている田畑が多いようである。遊休地の有効利用といえは聞こえが良いが、本来ならば食料自給を進めるために必要な土地ではないだろうか。パネルで覆われた地面は、日光が当たらなくなり、自然破壊につながると考えている。他の再生可能とされている発電設備についても、設備の建設に必要なエネルギー全体とそれによって得られるエネルギーの収支と自然への影響をきちんと調査すべきではないだろうか。

太陽光パネル事業者など、自民党や官僚の天下りや汚職の温床に、なっているから。

太陽光発電が主に問題となると思うが、太陽光パネルは産業廃棄物であり、火事がおきた際に消火の妨げとなることが既に事例として起きている。また、大規模ソーラーパネルの建設は自然破壊を促進し、大気汚染や土砂崩れを引き起こし、人間が自ら自分の首を絞める行為以外の何物でもない。目先の利益に目がくらんだ一部の人間による事態だが、その利益すら中国を代表とする海外に流れ出るものになっている。エネルギー問題については、国が中立な立場で本当に再生可能なエネルギーについて開発しなければならない。

温暖化は CO2 が原因ではないのでは。また、太陽パネルは生態系に影響がある。また、火災が起きたら消火できないなど様々な問題がある。また、風力についてはコストバランスが悪いため。

再生可能エネルギーでの発電はどれも現実的に考えると日本では実現不可能だと思うから。

反対側の主張を支持します。原発にしる、再生可能エネルギー(このネーミング自体が怪しい)にしる、新ビジネスへの誘導であり、環境・国防・近隣住民へのリスクを考慮していない。

地球は大きい時代スタンスでは、むしろ寒冷期の内に位置しており、地球温暖化は一部の利権者のプロパガンダに過ぎない。今後 600 万年は化石燃料が枯渇する心配は全くなく、CO2 が温暖化の原因にも全くなならない。原子力発電事故で死亡した人は皆無。日本の原子力も、火力発電も技術は世界一であり、全く CO2 等の心配する点も皆無である。

以前は信じていた、再生可能エネルギー依存率アップに 賛成だったが、再生可能という言葉自体がウソであり、依存率アップで環境破壊が進み、利権で国益も損なうため

コストが悪い、本当に使えるものか疑問です

投資対効果がわるいから

不安定でコストがかかり、反対に自然を壊している

太陽光パネルは製造および廃棄にかかる環境コストが大きく、環境のためにならない。風力発電は低周波問題やバードストライク等、やはり環境および健康に問題がある。二酸化炭素が地球温暖化の犯人になっていることにも疑問の余地がある。地熱や水力発電等、環境への負荷の少ない再生可能エネルギーを推進するなら賛成するが、おそらくそうはならないため反対する。

安定して供給できないばかりか、日本の貴重な自然を破壊することは断じて許せない。

火力中心の国がありましたよね？電気の使用量が違うのかもしれないが。

信用できない電力会社や政治家が推進しようとする事は胡散臭いし、日本列島には不向きなシステムだと思う。

依存率の前に、良い再生エネルギーは何かを考えないといけない

現在のエネルギー利権構造を保持したままで進めることには反対です。

安定した電力が確保できない 安定した電力を確保できるなら再生可能エネルギーに賛成
太陽光パネルは、実は環境破壊になっている。中国の支配、利権に利用されています。特に、媚中派議員の、質の低下が止まらない。
自然破壊となる。もう自然破壊はやめて 太陽光発電パネルはリサイクルできるのか
化石燃料での火力発電がエネルギー効率が一番良いだけでなく一番安価である。再生可能エネルギーはエネルギー効率最も悪い。エネルギー効率が悪いという事は地球環境への悪影響が一番多いという事です。
原発を全廃するため
電気というものは、使われる量と同じ分の発電をしなければいけません。さもなくば、周波数が狂って大停電を引き起こし、様々な電化製品が壊れてしまいます。再生可能エネルギーではそういった発電ができません。だから、現在は常に火力発電し続けています。使われなかったら捨てられてしまいます。ということは、再生可能エネルギーで作られる電気は無用なものです。しかも、環境も破壊し、景観も壊してしまう。メガソーラの4割が中韓米独という外国企業によるもので、日本国民は電気料として支払わされている。こんなバイ国政策をいつまで続けているのか？
コストが高い、安定した発電ができない、同じ島国のイギリスでの失敗を見て。
不安定な電源は頼りにならない 太陽電池も風車も数多く並べると美しくない
危険だと思う場所にある
現状では、政府のエネルギー政策が目的として定まっていない 再生可能エネルギーは、基本的にそれに向かうしかないが、現時点では、都市以外の自然破壊でしかない 企業の利潤追求のみであって、実際に発電を利用するより、金儲けでは、再生可能エネルギーの本来の目的から逸脱していると言わざるを得ない
少なくとも日本では再生エネルギーは必要としない。そもそも、再生エネルギーを取り出すエネルギーは、化石燃料に依存せざるを得ない。また、再生するためのエネルギーに、再生したエネルギーは追いつかない。つまり浪費するだけである。
非効率
昨今の気候変動を考えると、そもそも、エネルギーの利用率自体を低くする必要がある。暑くてエアコンを使う→発電のため環境資源を搾取ではどんどん状況は悪化するばかり。また、エネルギーを利用していくなれば再生可能エネルギーに依存していくしかないが、太陽光パネルなど廃棄方法がまだ決められていないもの、のちに取り返しのつかない問題が出てきそうなものも多く、再生であれそうでないものであれ、依存率を高めることは反対。エネルギー使用を抑えていくべき。
太陽光パネルが大切な山を覆い尽くすのは反対です。再生可能エネルギーが必要なのはわかりますが、やりたい放題は反対
太陽光発電や風力発電は、むしろ環境破壊につながる。既存の水力ダムの見直しと活用、火力発電が良い。CO2 温暖化説は人為的意図による
再生可能エネルギーは現状、太陽光発電が採用されることが多く、太陽光パネルの建設のために広範な森林が伐採され、さらに太陽光パネルが発火して燃えてしまうという事故や、森林伐採による土砂崩れも起きています。これらの太陽光パネルの費用は、再エネ賦課金という形で私たち日本国民の負担として重くのしかかってくるわけです。CO2 削減・脱酸素社会の実現をうたっていますが、結局は自然破壊を拡大し、CO2 を削減どころか大量発生させてしまっている利権のための政策なので反対します
安定供給の目処が立ってから高めるべきである。
原発は人類に対してのリスクが高すぎる、事故が起これば広大な土地を百年単位で人が住めなくなるくらい汚

<p>染する。だから火力発電で良いのである。再生可能エネルギーは学者と投資家が CO2 温暖化詐欺ともに生んだだけのビジネスモデルである。その嘘を見破るには嘘の根源になっている地球環境学ではなく、他分野である天文学、歴史学、統計学等をミックスすると見破ることができる。例えば CO2 は現在の日本の気温上昇の理由ではなく他の原因で気温上昇している。私は学者ですのご要請頂ければ機会があれば皆さんにわかりやすくご説明しましょう。結論からいうと火力発電で火を燃やしても実質的な現在の気温上昇の影響にはならないのでじゃんじゃん火力発電すればよい。原発と比較すればはるかに安全である。</p>
<p>原発には反対です。家の屋根には太陽光パネルが付いています。だけど、今は、火力を進めるべきです。その上で、再生エネルギーの技術力と理念をもっともっと高めるべきです。一足飛びに再生エネルギーにかじを切ると、ヨーロッパや中国の思う壺です。日本独自の別の土俵を作らないと、引き摺られてただ負けるだけです。多分に利権争いの面も有るので、理念だけでも高めないと、打ちのめされるだけです。</p>
<p>不安定な電源であり、再エネ付加金の温床だから</p>
<p>太陽光発電、太陽光パネルは火事、発火率が高いため太陽光発電・太陽光パネルの依存は反対です 原子力発電所に依存するのも反対です これからの再生可能エネルギーは水素エネルギー・水素サイクルが地球の新たなクリーンエネルギーとなるでしょう 液体水素、水素ステーションを設置 空気や水に近い水素が本当のクリーンエネルギーだ 本当のクリーン再生可能エネルギーだ</p>
<p>ソーラーパネルのゴミ問題はどうか？ 将来的に莫大なお金がかかるし、捨てる場所もない</p>
<p>再生可能エネルギーとひとくくりにするなら基本的に反対。自然災害を誘発する太陽光パネル設置や風力発電は反対。水力発電は大きいものでなければ問題ないかと思われる。雪氷熱・太陽熱・地熱・地中熱がどこまで使えるかわからないが、研究が進んで利用できるようになってほしい。</p>
<p>再生可能エネルギーの普及において日本企業だけをその基盤とするならばある程度は賛成。現段階に置いては他国の利益のためにエネルギー代金を支払っている状況。そのため現段階に於いては絶対的に反対。CO2 が環境破壊をしている、とも考えていない。</p>
<p>太陽光パネルは、景観を破壊しているから。</p>
<p>今現在の日本の技術力では、反対。盛んに太陽光パネルを推すが、一部では否定的な意見もある。(個人的には、あの真夏の太陽光による日光を電池的なものに蓄えて置けないものかと思ってしまうが) 安定的に供給できる手段が見つかり継続して行ける確証的なものが確立されたものが見つかれば、賛成。地熱エネルギー云々と動画で出てきたが、日本は有数の火山国なので出来なくはないと思うが同時に地震があるので、如何せんどうしたものか。</p>
<p>再生エネルギーは熱効率が悪いのにコストが高く、環境破壊が甚だしい</p>
<p>再生エネルギーは、環境破壊やエネルギー効率が悪すぎる。今の LNG 発電では、円安の影響を受ける。</p>
<p>供給量が不安定な再生可能エネルギーの依存率を上げれば穴埋めのための火力発電も増やす必要がある。そもそも CO2 が温暖化の原因というのは科学者の統一見解では無いし、上記に示した通り矛盾している。</p>
<p>エネルギーの種類にもよるが、太陽光パネル、風力(地上・洋上とも)、水力(ダム)など、自然環境を破壊して建設されている。再生可能エネルギーへの依存が地球温暖化を悪化させているのではという疑問が拭えない。</p>
<p>人間も自然の内側から生まれた以上、その行動で環境が変化しようが、人類が減りようがこの星では 46 億年の中の日常茶飯事。自然の内側の出来事。あらゆる生命が絶滅しても地球は宇宙に浮いていられる。今、宇宙が突然消滅してもそれを知覚できる生命はいない。平安時代は今より 5 度気温が高かった。地球規模で数℃の気温上昇など些末な事、環境など考えず、経済的国民幸福を刹那的に追い求めることが合理的。</p>
<p>安定供給に支障をきたすことに加え、将来的に導入したコストは電気料金に反映されるから</p>

大規模な太陽光パネルが農耕放棄地や山間部のあちこちに設置されていて、耐用年数を越えた将来、そのまま放棄される可能性があり、山間部では災害のリスクが高まると思います。太陽光パネルは主にガラスでできていて、損傷による拡散でその土地の環境汚染の恐れがあり、自治体でも問題視しています。
原子力のかわりに太陽光や風力といった再エネに依存することはすなわち風が吹かない日や日照が少ない日、はたまた夜間帯は電力が生み出されないことであり健康で文化的という日本国憲法に反することとなる
365日24時間安定しない電源はベースロードになりえない。
太陽光パネルは産業廃棄物であり、有害物質が含まれている。安全に処分することは困難で、環境汚染を引き起こす可能性が高い。風力も低周波の問題があるなど、実は環境破壊であるから。
再生可能エネルギーという表現がまず抽象的で、聞こえが良い表現となっている。おそらく太陽光パネル等であると思うが、自然破壊が進み、中国利権であることから、本質的な目的とずれている施策であると考えられるため。
再生可能エネルギーへの過度な依存は、新たな自然環境の破壊とわが国国土の不可逆的な侵害に繋がっている現状に鑑み到底容認できない。
中国の利権まみれ、建物に置くのならまだしも自然を壊してまでするべきではない。火力発電所を増やすべき、世界に誇る技術があるのに残念。
不安定な電源があまりに増えるのは不安である。
再生可能エネルギーはクリーンなエネルギーとしてこれからも推進し、新技術を開発していくべき。しかし、安定しない電力のため、依存しすぎは良くなく、エネルギーミックスの中で最適な活用とすべき。
電力の供給は、安定した品質の良い電気でない、電化製品も本来のパフォーマンスが出せないし、製造業においては高品質な製品が作れなくなってしまうため。
電力品質が著しく落ち 生活に大きな影響を及ぼすため
蓄電のさらなる技術確立を要し、現状として依存率は上げられない。
コントロール不能な電源を増やすだけでは脆弱
安定しない。地盤劣化、土砂災害のリスク
個人宅の屋根に乘せる太陽光パネルは個人の考え方として、、、例えば農業放棄地とか山間部とか、環境破壊をしてまでパネルを並べる必要があるのか？ パネルを作るのに安い人件費で作られていないのか？ それを作るのにどれだけ CO2 を排出しているのか？ そういうところまで含めて議論して欲しいです。日本国内のメガソーラー事業には、多くの外国企業が参入していますよね。そしてFIT制度の導入で、外国企業が日本市場に参入しやすくなっています。この制度で国内ではなく海外にお金が行っていることを考える必要があります。洋上風力発電市場でも外資系企業が積極的に参入しているので、同じことが言えると思います
バックアップ電源の確保が非効率。電力の率の低下
火力でよい
太陽光発電においては、パネルの設置場所が広大で景観の問題もある。また太陽光発電事業者が撤退後、設備がそのまま放置され、そこから火災等の災害もあるため、安全性、安定性、安心はないと考える。
再生可能エネルギー、を反対ではなく、どんなものでも、依存、はだめじゃ。地球にやさしく、人類にやさしく、地球と人類は共存していかなければダメじゃない？。
現在のような方法には問題がある
再生可能エネルギーはエネルギー収支比が低く、電気料金が安くないから。
国有地での地熱発電拡大なら賛成できるが、現在の太陽光や風力発電メインの政策には国土の狭い日本には

向かない！利権か金か知らないけど、バカ丸出し www
再生可能エネルギーは天候により左右される。電力需要は増加傾向であることからすると依存度を高めるのは反対である。また、過度な太陽光発電所の開発は自然破壊の面も持っている。自然保護も考えると依存度は高めるのは反対である
再生可能エネルギーに使う機器の問題だし、自然を壊してまで作る必要無し、何考えとる、太陽光発電のパネルは20年、風力発電の羽は大体10年、そのゴミの処分はまだ確定していない、環境汚染そのものではないか。
太陽光パネル設置の際にその土地の森林破壊の方が大きいから あと設置してもあまり恩恵が無さそうだから
太陽光発電のパネル、風力発電、電気自動車など、実際には甚大な環境汚染リスクがあり、これ以上許されてはいけないものだから
決して環境に優しくは無い。風力・太陽光共に大規模な森林破壊や海洋破壊を起こす可能性が高い
再生可能エネルギーかどうかによらず、エネルギー国防の観点から国内調達率と地域地産地消を考慮して考察すべき。
太陽光、風力ともに逆に森を切り開いたり、野生動物に危害を加えたり逆に環境への影響が大きいから。また、発電効率も良いわけではなく業者による強行突破が行われている印象だから。
電気代が上がる
太陽光発電の発電所を見ればわかる。醜悪そのもの。パネル自体有害で土地の利用ができなくなる恐れがある。風力も同様
太陽光発電によって、土地がつぶれ景観がそこなわれることには反対。また、利用後の太陽光パネルの廃棄(不安がある。
太陽光パネルは日本の環境(災害が多い、地震、豪雨など)にあわず、かつ、森林伐採をして自然環境を破壊している。
再生可能エネルギー自体の信憑性に説得力が欠けている為
再生可能エネルギーではエネルギー効率が悪くメイン電源にはならないため、電力供給のひっ迫状況、価格は再エネを推進すればするほど悪化する。また健康被害の問題もあり、中国利権等、国防の面からも推進すべきではなく、日本が最先端の技術を保有している火力発電の新設に舵をきるべきである。
再生可能エネルギーそのものは否定しないが、安定供給は難しいと考えるため、依存度を高めることは賛成し兼ねる。
太陽光パネルのデメリット(廃棄が大変など)、風力発電では周波数(波動?)で生物に影響があるとも聞きますので、これまでの火力、水力などでよいと思います
太陽光パネル設置に必要な土地の確保が難しく必要量が確保できないため
現時点で太陽光発電や風力発電は、廃棄時に沢山のお金を必要とし、また、環境汚染を増大させると言われている。第3世代のペロブスカイト発電が軌道に乗り、固体電池の開発が完成し、これらが非常に安価で供給されるようになれば、再生可能エネルギーでの発電は実質的な意味を持つようになると思われる。それまでは、全面的に再生可能エネルギーに頼るのはむしろ危険なのではないか。
再生可能エネルギーとは聞こえはいいが、発電施設自体が環境を破壊している。火力、原子力か再生可能エネルギーかの二元論ではなく、そもそもこんなに社会が便利である必要があるのかを考える必要があると思う。
再生可能エネルギーって、本当に再生可能ですか？ 洋上風力発電や太陽光発電のパネル、地球にとっては粗大ゴミになるのでは？ そもそもの電気の使用量を減らす工夫や、各自が家庭で自分が必要な分だけ電気を生み出す方法を新たに考えていくことが大切では？

IPCC の CO2 が地球温暖化の犯人と言っているが、根拠のない戯言。500 名のノーベル賞受賞者も同調している。根拠のないものを信じる方が、おバカ。また、太陽熱発電パネルや、風力発電は、環境破壊のやり玉に挙げられており、この発電量を増やす必要性を感じられない。

CO2 については、畜産などの影響も大きい。夜中に娯楽施設を開店する必要はないし、病気になるほど自然破壊して作られた食物(肉やパーム油など)を食べる生活は一度度捨てるべき。何もかも過剰な依存を一度見直すべきだと思う。自然に反した異常な生活をする人のために、危険な原発を稼働する必要はない。

再生可能エネルギーには、維持費や老朽化した際の再構築の費用もあり、様々な検討が必要と考えます。